

# 幼兒の教育

第三十一卷 二月 號 第二號



東京女子高等師範學校內  
日本幼稚園協會

米女國史  
驚嘆激賞  
さる

# 幼稚園の三必須書

【十二版】奈良女高師教授・附屬幼稚園主事 森川正雄 先生著 價十三圓 送十六錢

## 幼稚園の理論及實際

【五版】奈良女高師教授・附屬幼稚園主事 森川正雄 先生著 定價二圓八十錢 送料十六錢

## 保姆教育學

【三版】奈良女高師教授・附屬幼稚園主事 森川正雄 先生著 定價二圓 送料十六錢

## 幼稚園育兒法

【五版】大阪家なき幼稚園長 大阪毎日新聞 聞社顧問 橋詰良一 先生著 定價二圓五十錢 送料十六錢

## 家なき幼稚園の主張

▲唯一の邦文參考書  
幼稚園の理論及び實際を體系的に説かれたる唯一無二の最も良の參考書である。

▲幼稚園の經營原則  
内容は古今の理論内外の實際等幼稚園經營諸問題を網羅す。

▲保姆檢定指定書  
各府縣決定

▲保姆檢定唯一參考書  
文部當局と打合せ、新定幼稚園令施行規則の教育兒部心理・教授法・管理法を全部網羅した唯一の保姆用書

▲保姆養成の必須書  
保姆に必要な教育學を詳説女師保姆養成所の採用多し

▲新幼稚園施行規則  
による保姆に必要な幼稚園並に託兒所に於ける適切なる育兒法を詳述し盡さる。

▲本書も又保姆檢定の必須書にて保姆並に託兒所經營者唯一の必要參考書

▲創設者の苦心披瀝  
づ露天に於ける家なき幼稚園を創設し次に自動及び車に進みし實況を披瀝す

▲六つの家なき幼稚園  
現に御經營の六幼稚園の經營法と實際とを悉く詳記する

▲口繪寫眞二十枚  
願懇切。經營、保育狀況明瞭

東京大阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區錦町三丁目九番地・東區本町一丁目二番八地  
大阪市南區安内寺堂一丁目二番八地・大阪區大津町三丁目七番六地

# 生徒募集

本科生 四十名

研究生 若干名

願書受付三月三十一日迄

規則書は貳錢切手封入の

上申込まれよ。

玉成保姆養成所

所長

ソファヤ・アラヘラ・アルウキン

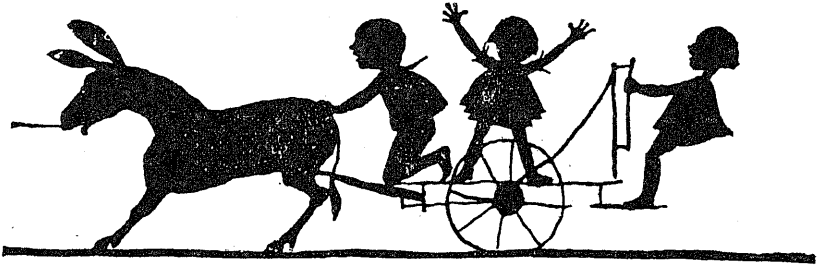
東京市外高井戸中高井戸一三三

省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來十五年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、  
附近に森あり、野あり、川ありて四時自  
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然  
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用  
の手工等材料豊富なり。



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫  
 主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
  - 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
  - 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
  - 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ
  - 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
  - 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルベシ
  - 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
  - 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
    - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査
    - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ開催
  - 一、雜誌發行(毎月一回)
- 
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
  - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
  - 一、其也本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
  - 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ケ
    - 會長 一名 會務ヲ總理ス
    - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
    - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
    - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
  - 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
  - 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
  - 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、アトアルヘシ
  - 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得レニアラザレハ變更スルコトヲ得ズ





號二第 育教の兒幼 卷一十三第

—(次 目)—

口 繪 おひなさま

保育談話會に於ける橋崎博士の講演

卷頭言(裁く勿れ)……………倉橋惣三(一)

哲學的人間學と幼稚園問題……………橋崎淺太郎(二)

小學校に於ける入學檢定……………堀七藏(一七)

ヨーク公姫宮エリザベス女王のナースリー拜觀……………宇佐美ケイ(二八)

保育といふこと……………大塚喜一(三三)

幼兒が喜び歌ふ歌(三)……………葛原しげる(三八)

全國保育大會に就て……………氏原 銀(四四)

コドモ座誕生日の日に……………渡部 きよ(四八)

おち葉をひろひて……………新庄よしこ(五五)

二月の特技材料……………和田 實(五九)

おひなさま……………及川ふみ(六一)

嫁接法の種類……………大岩 金(六三)

幸吉の旅……………岡田美津(六五)

雜 錄 東京女子高等師範學校保育實習科生徒募集・奈良女子高等師範學校保姆

養成科生徒募集・保育實習科の新卒業生

# 生徒募集

募集人員 百 名

出願期日 三月三十一日迄

願書到着順に無試験にて入學を許可す。規則書は貳錢切手封入の上申込まれたし

東京市外杉並町高圓寺一〇〇番地

## 東京保姆專修學校

校長 侯爵 久 我 常 通

# 生徒募集

●募集人員 六十名（来る四月入所せしむ可きもの）

●出願期日 来る三月二十日迄

規則書は貳錢を同封して申込まれたし

## 目白幼稚園保姆養成所

所長 和田 實

東京府豊多摩郡落合町下落合一三三八番地

省線目白驛下車八丁目目白文化村入口  
西武線中井驛下東北丘上へ五丁  
武藏野線推名町下車東南方へ四丁

# 生徒募集

一、本科 七十名  
一、研究科 若干名

右募集ス

出願期日 三月一日ヨリ三月廿五日迄

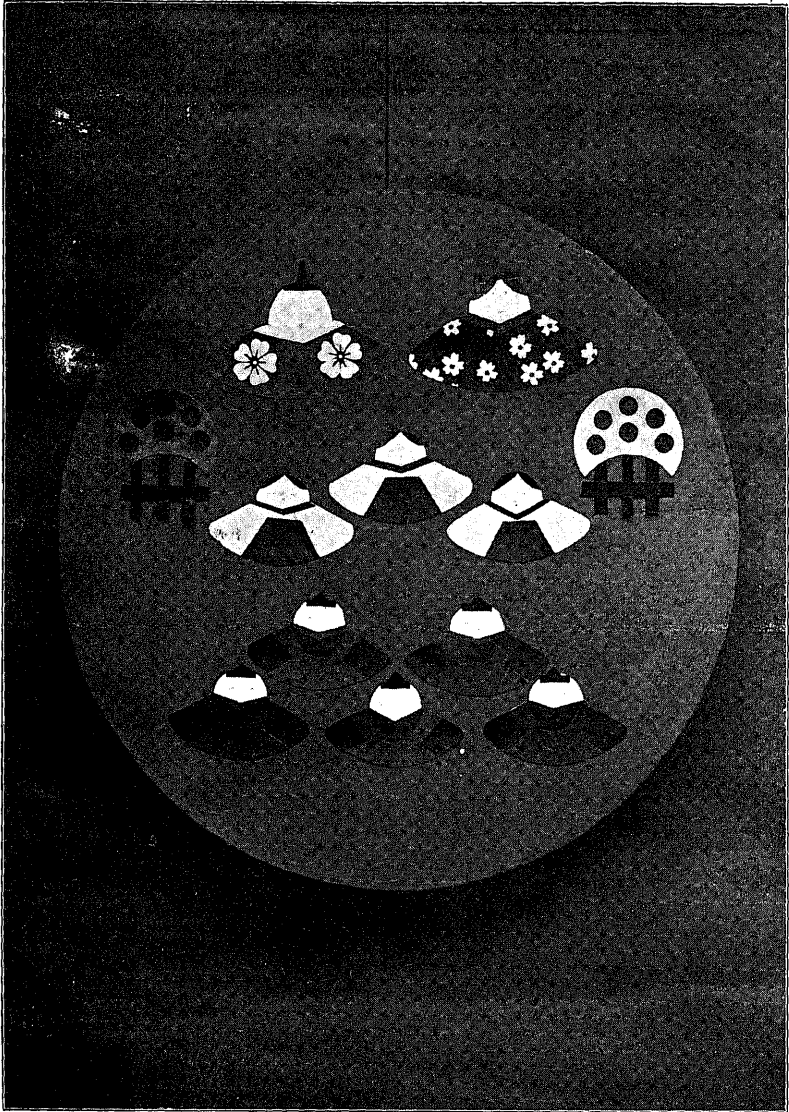
規則入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市外大井町原五二〇八

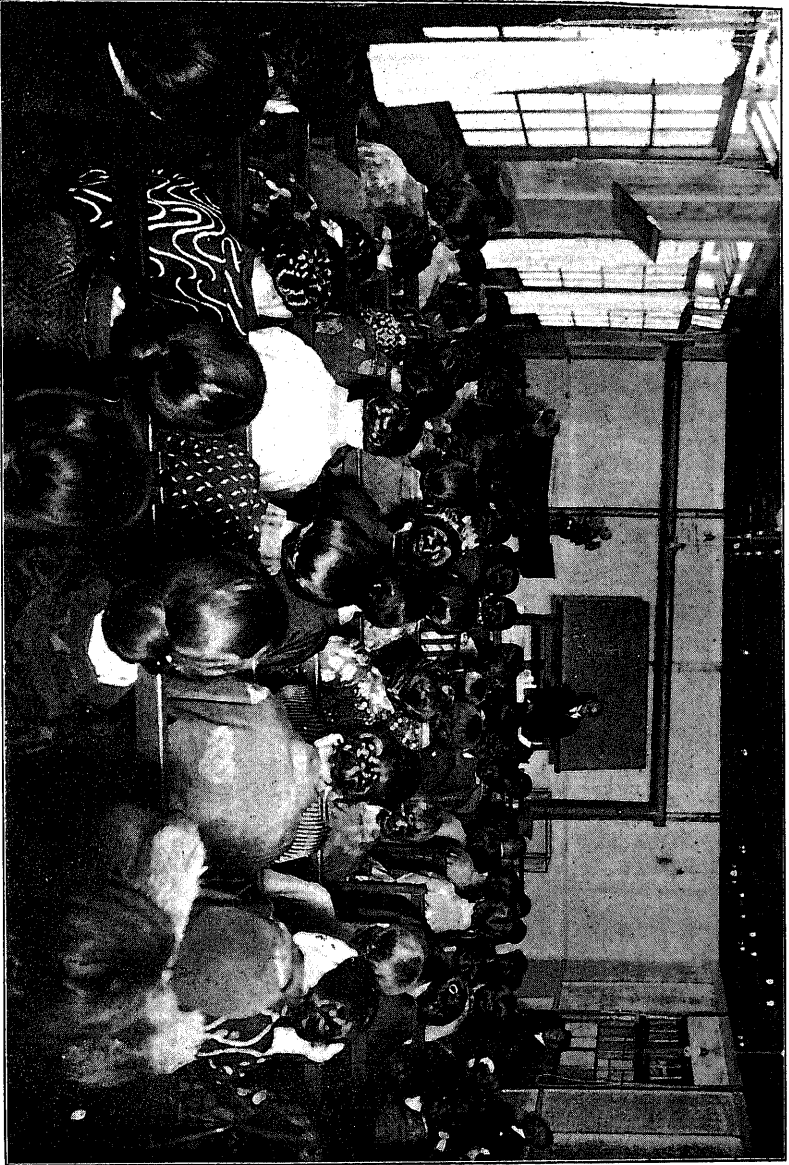
東京昭和保姆養成所

所長 土川五郎

顧問兼講師 倉橋惣三



あひなごま



保 育 談 話 會 に 於 け る 榎 崎 博 士 の 講 演

# 幼 児 の 教 育

昭 和 六 年 二 月

## 裁 ぐ 勿 れ

教育は育てることである。育てるといふことは、個性の外に行はれるものではない。この意味に於て、教育は絶対に個性に即して離れないものである。

教育は理想をもつ。理想は普遍性から個性を批評する。それは當然である。又、教育は方法を用ふる。方法は適法を選ぶの爲に、個性を検討する。それは素より必要である。

しかしながら、教育が個性に對して執り得る態度は、之れ以上一步を超ゆることも許されない。與へられたる個性を正面に凝視する外、少しでも、之を裁くべき権能はないのである。評價も査定も、方法の中のことである。心を動かして人の子を裁くことは、あなたが教育をやめない限り、許されないことである。

裁く心、それは我が個性を以て他の個性を拒否しようとする心である。絶対に個性に即して離れない教育の心と、全然並び居ることの出来ない心である。相手が小さな幼児なるが故に、少し位裁いたとて小さな罪だなど、思つてはならない。

# 哲學的人間學と幼稚園問題

檜 崎 淺 太 郎

(去る十一月十五日、日本幼稚園協會主催保育談話會に於ける講演の主要筆記であります。文責在筆記者)

教育の事業と感化事業は年々その經驗の重なるに従つて、幼時期と青年期とが人間教育の最も重大な時期であることを、何處の國に於ても、強く感ずる様になつてまゐります。特に亞米利加の最近の研究に見ますと、犯罪者を少くすることは如何にすれば可能であるかといふことを詳しく研究してみると、幼時の悪い習慣がもとになつて犯罪が起る場合が多いから、この幼時の悪習慣の排除がその根本的方法であるといふのが諸學者の結論であります。それで最近には政府が非常な經費を出しまして、小學校幼稚園に於いて、今何んな習慣がついてゐるか、悪い習慣は何うしてついたかといふ習慣の調査をして居ります、そして悪い習慣には悪い習慣のつくような條件が必ずあるのだから、家庭や、學校や社會から、その條件を取り去らうといふような大きな國民運動が起つて居ります。この一事に見るも幼兒教育が何んなに大切であるかが察せられます。それで斯様な方面に日々苦心をされてゐられる幼稚園事業に御



關係の方々に、お話をするには、非常な重大な責任を感じさせられます。堀先生は、私に幼稚園に關する何でもよろしいから話をせよと仰せられました。明日からでも、毎日の保育の上に斯んな點に氣をおつけになればよいといふ様な、適切なお話が出来れば、一番よいと思ひますが、これは私の専門ではありません。私の仕事と趣味の關係から子供に興味を持ちまして、滯歐中いろんな幼稚園を観ましたので、その方面から注意すべき點を申上げるもよろしいが、然しこの方面は既に倉橋先生や堀先生の専門家が十分話されてありますし、私が二年餘の間に見た位では十分でありませんから差控へまして、實際から離れて、歐羅巴の學者の氣持を、保育の實際とは遠い話ですが、お話致さうと思ひます。その學者の氣持の中から一つの新しい學問即ち「哲學的人間學」が生れたといふことになりませんが、その學問が何ういふ事に影響するかに就いて申上げたい。而してこの學問が發展すれば、自づから間接に幼兒教育に影響を與へると思ひます。而してその問題に入る前に、極く簡單に

歐羅巴の幼稚園と日本の幼稚園と比較して如何に違つてゐるか。

日本の文化を發達させるために若し西洋から學ぶとすれば西洋の何れの國から學ぶがよいかこれを話しまして本問題に入ります。

## 日本の幼稚園と歐米幼稚園

日本の幼稚園と申しましても、私がよく知つて居りますのは關西、特に神戸です。東京は外國から歸りまして堀さんに案内していたゞいて、こちらを拜見しただけですが、假りに之を代表者として日本の幼稚園といたします。歐米と申しましても、露西亞・獨逸・佛蘭西・亞米利加の各二三の幼稚園の管見に過ぎません。先づ兩者を設備で比べると幾らか違ひはありますが、そんなに違つたものでもありません。日常の保育の仕方にしても、見聞しました結果を報告して明日より斯様になさいと奨めする程のものはありません。小さな事を申せば、ハルビンで露西亞貴族を教育する所をみました時に、セクシヨン・ペーパーを凡る場合に使用して居りました。私は通譯者に「幾何學的の畫の場合はこの紙はよろしいが、自由畫は白い紙に描かせては如何でせうか」と話したことでした。獨逸の南部の幼稚園ではいろいろの國の幼稚な樂器を各兒に一つづ、持たせて、音樂隊遊びをさせてゐました。獨逸は音樂の國と云はれますが、子供が音樂あそびを致して居りました。參觀しました時間は、一同がいろんな原始的な樂器を使つて合奏しました。それ等の各音樂器を合せると面白い調和やメロデーが生まれて、子供は大變に喜んで遊んでゐました。

現在、獨逸の保育思想中には、中心のフレーベルの思想はちつとも變つて居りませんが、それを骨にしてモンテッソリー法を加へ、如何にして二つを結びつけて一貫した保育法にするかを研究し出しました。フレーベルモンテッソリー協會が出来て雑誌バンフレットが出て居ります。ライプチヒの兒童研究

所では、ホルケルト（哲學者ホルケルトの息子）がいろ／＼工夫しました教育玩具で、世界機械展覽會に出品するものだといふのをみまして、私もそれを三組買つてまゐりましたが、日本で造りやすめものと大差ありません。（ビルダーに似た組立玩具）其處ではその玩具を子供に與へて子供が作つて遊ぶ順序を寫眞に撮つて研究して居りました。佛蘭西でも新しい幼稚園教育法はモンテッソーリ法を研突利用し、流行つて居ります。伊太利ではムツソニーが非常に獎勵して居りますので小學校に於ても行はれて居ります。

以上、目に見ました所では變つた事ありません。ですから、日本の現代の保育は歐米に對して大體恥づる所なしと存じますから、諸姉は自信を持つてやつていただいでよろしいと私は斷言いたします。

#### 日本は將來何れの國の文化の影響を利用すべきか

文化にはいろんな種類があります。日常の事なら亞米利加、經濟方面を有効にしようとするならば亞米利加に學ぶ所は多い様です。併しそれは下級の文化であつて、人間はそこで満足出來ません。眞に人間をよろこばせる文化は、誰もいふ様に、亞米利加にはありません。日常生活以上に人間を満足させる文化は米國には多く無いと云つて過言ではありません。然らば歐羅巴で假りに獨逸、佛蘭西、英吉利を並べて、何れを取るかと申しますと、人によつて別だと思ひますが、私の感じを申しますと、今之を各國

の都市に就いて比較して見ます。

街といふものは、その國の文化の産物でありまして、京都と東京、鳥取はそれ／＼違つて居ります。街の興へる感じを比べてみますと、ロンドンには商賣の都市、ニューヨークは大工場の都市、ベルリンは科學的都市と云ひ得ませう。獨逸の街は水道でも道路でも家の造り方でも科學的に出來て居ります。けれども、都市といふ位の名前で、日本の「みやこ」といふ言葉を興へるにはもの足りません。我が日本の「みやこ」といふ言葉を興へられるものはパリーの都です。若し、形容をつけるなら、パリーは人間の都です。斯く四つの都市を並べますと、違ひがよく感じられます。西洋にいらつしやいました方は、大體この感じには御賛成のようであります。獨逸の學者も亦巴里を「非常にすぐれた人間の都」と呼んで居ります。獨逸人は大體、佛蘭西人をよくいひたくないのですが。

何うしてパリーが人間の都になつてゐるか。まづ、部分的にベルリンとパリーを比べてみますと、何うしてもベルリンの方がよく出來て居ります。ベルリンでは、裏道を歩きましたが、紙屑も落ちて居りませんが、パリーでは暴風の跡のように散らばつて居ります。部分的には勝れてゐるにも關らず全體を比べるとパリーの方が進んでゐるのです。部分が如何に勝れてゐても全體が劣ることがあります。例をとれば、體操は個々の部分の効果は申分ありませんにも關らず、我々の氣持をよくするものは遊戯であります。體操は衛生的、解剖學的でありますが、遊戯は人間的な爲であります。公園に例へますと、ベ

ルリンは豊島園に當り、パリは明治神宮外苑を人間的に軟らかくしたものです。ベルリンに居りますと肩が凝ります。佛蘭西へ行きますと肩の荷を下した感じですよ。この感じを私は公式に表はしてみます。

柏林：私 = 男性：私

巴里：私 = 女性：私

男性對私の關係は、親密であつて、しかも間隙があります。人間の心に、しんみりと感じが來るのは、女性に對した時であります。

學問——哲學で兩者を比べますと、哲學と一口にいへば哲學は獨逸であると思つてゐますが、その獨逸の哲學は或る所迄行つては、人間の心の極く奥底には觸れないで止つて居ります。佛蘭西の哲學は人間の中心に觸れてまゐります。明治維新後、西洋文明を輸入しました。佛蘭西文化を輸入しようとしたのですが中止になり、亞米利加、英吉利から、その後獨逸から輸入しました。今では佛蘭西の教育法も紹介されて居りますが、繪や小説以外に我々の廣い教育方面には入つて來なかつたのであります。日本に獨逸哲學が講ぜられてから四十年になりますので、譯書も原書も澤山讀まれて居ります。にも關らず獨逸哲學は日本民衆の意識に入つて居りません。試験を受ける爲や職業の必要から學ぶせいかも知れません。併し、それには一つ足りないものがあるためです。獨逸哲學にはソンテイマン（洗練された感

情)が入つておないからです。佛國ではこのソンテイマンの上にあらゆる文化が発生して居るのです。繪でも建築でも、これが人間味の入つたものにして居ります。これがあらゆる文化の基礎になるのであります。そこで歐米の文化を受け入れて、日本の文化をもつと濕ほひあるものにするには、佛蘭西文化を受け入れたらばと私は考へておます。若し將來眞の文化を外國に學ぶならば、佛蘭西文化を學び度いと思ひます。以上で滯歐所感の一端を終り、これから本問題に入ります。

### 歐羅巴の精神科學界の基本潮流

學問は學者の心、心の奥の方の氣分から生れます。だからよろしい學問は、よい人間からでなくては、生れて來ません。繪でも眞によい繪は、よい人から生れます。ミレゝの様な人でなくては、ミレゝの様な繪は描けません。その氣分は學者の基本潮流です。この精神科學界の氣分を見ますのには、如何なる學者を見るかが問題になります。學者の中にも上智・中智・下智と種類がありまして、大體を見る時には平凡學者を以て見て行かなくてはなりません。併し、此處では上智學者をのみ見ることにします。それではその上智學者は誰が定めるかといふと、外國で評判を聞いたり、私が會つたり、著書を読んだりしてよいと定めたのであります。それ等の學者は今日如何なる事を研究の目標にしてゐるかと思はしますと、人間の心の中の本質は如何なるものか、それをありのまゝ知りたいたい有りのまゝの姿を捕へた

いと念じてゐます。かくして研究の潮流を形式的に、概括すると、從來よりも非常に研究が深刻になつて來ました。研究對象が從來よりも根本的になりました。心理學でいへば、本能の問題から感情意志の研究に入つて來ました。従つて研究方法が從來よりも深くなつたのであります。少し前迄は、自然科学的、統計的、數量的、實驗的な方法でありましたが、子供の心を味ひ體得して見ようとしています。人間の心の中の眞の心とは何ぞや換言すれば、昔から與へられた問題でありますが「人とは何ぞや」であります。靈を持つた人とは、生物學で考へる人とは違つた、又動物とは異つた生命を持つた人とは、如何なるものかを問題にしてゐるのであります、これの研究が哲學的人間學であります。

### 哲學的人間學

これを最近に問題にしたのは、二三年前に亡くなつたケルン大學のシエラー教授と、現フライブルグ大學教授ハイデッガー教授です。ハイデッガー教授はその講義「獨逸の理想主義と現代の獨逸哲學の苗床」に於て、獨逸哲學の根本問題は、「人間は何か」、「存在とは何か」の二問なりと論定しました。日本でも、ものゝ存在に對して深く考へる人が出て居られます。商科大學の畏友山内得立博士の「存在の現象形態」はこれに應じようとした著作でありまして、獨逸哲學界の中心問題と氣脈を通じたものであります。而してそれに答へるには「人とは何ぞや」が分らぬと解けません。カントも亦晩年に四問題とし

て、(一)人は何を知ることが出来るか、(二)人は何を爲す可きか、(三)人は何を望むべきか、(四)人は何ぞやを提出し、この前の三問題の鍵として第四問題をまづ問題にしました。カントは大學でもこの講義を度々して居ります。學問中の根本の問題は、最後は人間本質の問題に移つて來ます。大抵、人間はものを考へたり爲たりする時は、最も重大な事は詮議せずによく分つて居る自明の事として出發しますが、何かに打つつかつた時に、この自明と思つたものに疑を抱くに至るものです。男女が結婚します前には、「女とは何ぞや」「男とはどんな者か」深く追究致しませぬが、何か事が起ると始めてこの「何ぞや」を問題に致します。教育も亦然りて、青年とは何ぞやが分らなくて青年教育は行はれて居ります。が、青年教育が行き詰ると「青年とは何ぞや」が問題になります。小西重直先生は「教育の本質觀」を出されました。小著ですが教育體驗を書かれた貴重な深い御研究であります。そしてこの學說の根本になつて居るものは、人間の人間たる所以を人の靈的作用に求めて居られます。畏友篠原博士は「教育は自然の理性化なり」と申されます。これは教育學上重大な命題であります、而して篠原博士のこの自然と、理性とが、如何なるものかが、非常に大切な概念でありまして、それが不明だったり、違つておれば間違つた教育學になります。今の歐洲精神科學界は、かくの如き重大なる學問の前提とされてゐるのを、鈍てたゞ直して見ようといふのが、今日の學者の氣分なのであります。

これを實際教育で申しますと、今一幼兒を托せられたとします。先づ體を丈夫に強健に、何んな仕事



にも堪へられるようにするには體の中の如何なる點を如何にするか、肺や心臟や筋肉は特に大切だから、この器關を斯々と答へられるにしても、心の方を尋ねられては、體の場合程簡單には答へられせん。普通の心理學は個々の機能はよく記述してありますが、讀後、「儲子供は何んな者であらう」と考へた時多くの書物は、之に解答を與へてくれません。教育書の方では幾らか書いてあります。子供は活動的だと。然らば活動的だから何うしたらよろしいか。活動的だから成るべく活動させておくといふだけなら、猿の教育も同じことであります。子供の悪い方面を見る人は、子供はいろ／＼取り止めもないことを言つたり爲たりする。だから抑へるがよいと云ひます。佛蘭西の宗教方面の人は此の法を取つて居ります。明治八年に外國人が京都に開いた幼稚園では、子供の手に負へない方面を條項にして書き並べてあります。明治九年に出來ました當幼稚園のはそうでなく、固有の心意、情緒、善良な行爲を何うするかといふ方で、保育法を條項にしてありました。

少し以前の、子供の教育書、或は文士の書いたものを讀みますと、子供は純なものだから、純に仕立上げよう、天真爛漫だから天真爛漫に教育して行かうと説いてあります。子供の天真爛漫とは何ういふのであるか。低い意味では、正直なこと、欲するまゝに言行するといふのでせう。その通りならば夫も鳥も同様に天真爛漫です。其の點を伸ばすなら、教育的でも何でもありません。大人は偽りを澤山持つて居りますから、子供の純を尊重するのです。本能のまゝに振舞ふので、天真爛漫だといふこともあり

ますが、本當の天真爛漫といふのは、もつと子供の奥にある眞の人間性が時に表現する。之を天真爛漫と呼ぶのです。それを見つめて、伸ばして行かうとするのが、其の教育です。故に教育的に本當に伸ばさうとするものは、何であるかを見なければなりません。

又、子供は好奇心のかたまりだから、これを伸ばせば學者になると云ひます。亞米利加の學者は之を度々問題に致します。好奇心で外界を取り入れる、いろんな智識を取り入れるのですが、智識はよく用ひれば役に立つけれども、悪くも用ひられます。智識そのものは教育直接の目的にはなりません。必要無く可からざるものではありませんけれども、それだけでは足りません。その智識を統一するものがあつて、始めて役に立つものになります。好奇心から質問する、質問するから只答へて智識を與へてやつた。好奇心を満足させたのみで、教育が出来たと思ふと間違であります。智恵がついただけでは足りません。この智恵を普通の智恵にせずに、叡智に變へなくてはなりません。本當の智恵は人間の爲にもなり、自分の爲にもなる意義ある良き智恵です。使へば使ふ程ためになるもの佛教で「良智」といひます。普通の「才」があるといふだけでは困ります。人のため自己のため意義ある良智良才にならなくてははいけません。只の智恵を良智にするには、子供の心の奥にそれとは異つた芽が出て來なければなりません。この中心のものを目覺させないでは本當のものでありません。これ呼び起すには如何にするかが人間學です。大人の斯様な研究が哲學的人間學であり、幼兒の研究の場合には哲學約幼兒學とな

るのであります。研究は唯の研究であつてはなりません。眞に意味深い研究でなくてはなりません。

現代程今申したような研究が、大切な時代はありません。ペスタロッチも「何故人は人を研究しないだらう」と言ひましたが、今日程歐米學界の一流の學者が一致して此の問題に打ち向つたのは、過去の歴史には見ない所であります。

さて、如何にして人の本質を認めて行きますか。これをするには研究者が自分を深めて豊富にして行くことが前提で、自分が淺薄貧弱では研究に入る資格がありません。何故ならば人間の本質を自分の中に見るのでから。而してそれが自分の内に見えましたら、子供の表現、言行、話を通じて、子供の本質を見ることが出来ます。子供の本質は多くの場合、普通の時よりも、特殊の場合に見られます。一旦緩急ある時に見られます。

### 各國學界の現状

佛蘭西では昔から心理學と社會學が勝れて居ります。殊に社會學にはすぐれた學者が出ました。サンシモンが社會學の芽をこさへたのです。マルクスはフランスに學びましたが、彼の思想の主なものサンシモンに養はれたと申されます。何の學者にしても佛蘭西では一方に深い心理學者であり、或は社會學者でありますが、今迄は心理學界と社會學界とは獨立して居りました。最近には兩者が聯合しまし

て、人間と人間の作れる社會とを研究して居ります。兩者が離れて研究したのではない、社會學を研究するにしても、心理學研究に立脚して居なくてはならないとするようになりました。斯様の狀態で何んな方面に學界が進んでゐるかと申しますと

佛蘭西を指導して居る二人の學者のことをまづ申上げたい。それはデカルトとパスカルであります。この二人の思想を頭に入れて置かぬと現在の書物が良解出來ません。デカルトは理智に長け、パスカルは情の人であります。人間は理智と情との兩面がなければなりません、人間の生活の根といふべきは情で、情から理智は芽を出すのであります。情と理智を抱擁させたような人がベルグソンであります。日本ではベルグソンは忘れられて居る人ですが、佛國では、今日でも非常な勢力です。

米國は、現在の生活を愉快にし、感じよくするのが目標で、學界もその目標で實際生活に役に立つような研究を致します。一昨年萬國心理學界が亞米利加に開かれました時、千百人許りの出席者中歐洲からの百人位を除いては殆んど米人でありましたが、種々な研究報告が四百種に上つて居ります。その問題はいろいろありますが、その間に何等の關係はありません。社會の廣い範圍から提出された種々の問題の解答であります。教育界、工場、實業界等から現實の問題を捕へて解決して居るのであります。所が最近開かれたウキーンの獨逸心理學界での問題といふものは、學說中心であり、その學說の解決のために研究がなされてゐるのであります。然しこの實用を主とした亞米利加でも、一部の人は、自覺し始

めまして亞米利加の様な學問では學問とは言へない。學問にするためにはもう一度反省しなければならぬ。行動心理學にしても、行動とか刺戟、反動といふものがはつきり考へられてゐない。その事から考へ直して行かなければならぬ」とデューキー教授は述べられました。ハーバート大學のボーリングも「實驗心理學の歴史」の序文に面白いことを書いて居ります。「實驗心理學の歴史は千八百四十年のフェヒネル當りから書き出せばよいと思つてやり出した所が、其處からでは出来ないことが、明になつて、デカルト當りに迄さか上らなければならなかつた。今迄、亞米利加は哲學素養が足りなかつたと思ふ。これからは此の素養がもつと必要だらう」と。これは一段と深まり自覺し始めた傾向であります。亞米利加ではデュラントの書きました「哲學の話」が日本の山間の驛店でキングを供へてある程度に普及して居ります。亞米利加の精神科學界も從來より深刻化しかゝつたのであります。

露西亞は、全く心理學——主に生理的心理學が研究中心で、精神の問題が殆んど入つて居りませんが、最近モスコフデヘーゲルやマルクスの認識法から、心理學を一層深く研究せんとする氣運が起つてゐます。

以上申し上げました様に、大體西洋の學界は、今日枝葉の問題よりも根本の問題に入らうとする傾向になつて居ります。日本でもこの數年來の著書にその現れが見えます。

## 結 論

かくの如く學界が變化して深刻するとは、人間が深刻化せんとしてゐることでありませう。學問が深くなると、それが機縁で、人間が深くなり、人間が深くなると、諸種の文化的仕事は深くなります。今日は學界一流の人々の學的氣分を話したのでありますが、この學的氣分が一般に廣く擴まつて行くと、教育界も又深化するに相違無く、従つて幼稚園教育も今迄よりも深刻化して來るに違ひありません。近い將來に今日も話したこの學界の氣分が、實際方面に入つてまゐりませう。この氣分で實際に當りますと、教育の上にも必然的に變更が來なければなりません。終に甚だ抽象的な話で、御満足いたゞけぬ事と思ひますが、それは私の力の及ばぬ所至らぬ所で、専心御寛容を請ふ外はありませぬ。御静聽をわすらはせましたことを深く感謝いたします。

# 小學校に於ける入學檢定

堀 七 藏

## 一

小學校に於ける入學檢定がどんなものであるかを理解することは幼稚園教育者に取つて相當大切なことと思はれます。それで茲に小學校に於ける入學檢定に關する事項を説明する考であります。勿論來學年度、即ちこの四月入學する兒童にとつては遲蒔であります、明年四月から入學する幼兒の教育上幾分の參考となるかと思はれます。

凡そ小學校は義務教育を施すのでありますから、幼兒が學齡に達すればその保護者は小學校に就學させねばなりません。また小學校ではその學校區域に居住する學齡兒童を就學させる義務があるのであります。

それで市町村立小學校では滿六歳に達した兒童の善惡良否を問はず、入學させねばならぬのであります。檢定の結果、入學させるとかさねぬとかいふ權利は毫末もないのであります。市町村ではその居住

者の子が學齡に達したものを調査して、その市町村立小學校に就學させることを保護者に通知すると共に、小學校に學籍簿をつくらしめて就學させるやうになすものであります。それで保護者はその指定せられた小學校に子女を就學させねばならぬし、小學校では市町村役場にて指定した學齡兒童を就學させて、小學校教育を施さねばなりません。試に小學校令並に同施行規則を見ると次の如き條項があります。

兒童滿六歲ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス。(令三二條)

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル日以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス。(令三二條)

學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其ノ終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ。

市町村長ハ其ノ市町村内ニ居住シ翌年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スベキ兒童ヲ調査シ毎年十二月末日マデニ其ノ學齡簿ヲ編制スベシ但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スベキ兒童ヲ調査シ毎年九月末日マデニ學齡簿ヲ編製スヘシ。(則八〇條)

學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校ニ入學セシムベシ但市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得。(令三六條)

官立若クハ府縣立ノ學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分高等學校若ハ中學校ノ豫科又ハ盲



學學校若ハ聾啞學校ノ初等科ハ兒童就學ニ關シテハ之ヲ市町村立尋常小學校ト同視ス。(令三六條)

市町村長ハ兒童ヲシテ市町村立尋常小學校ニ入學セシムベキ期日ヲ豫メ其ノ保護者ニ通知スベシ。

(則八二條)

一一

小學校は義務教育でありますから、入學すべき學校を選定する自由がないのが普通であります。特別に發育不良な場合には就學猶豫は出來ますが、それは單に就學をおくらすだけで、是非義務教育たる小學校教育をうけねばならず、受けさせねばならぬのが保護者の義務であります。若し義務教育に代るべき小學校教育をうけさせるならば、指定の小學校に入學させなくともすむのであります。それは家庭に於て小學校教育と見做すことが出来る教育(これは認定を受けねばなりません)を受けるか、市町村立小學校の代りに小學校教育を行ふ學校、即ち官立小學校、または府縣立小學校、若くは私立小學校に就學させねばならぬのであります。かゝる官立府縣立または私立小學校に就學させるときは、市町村立小學校に入學させなくともよいのであります。従つて市町村立小學校以外に官立小學校、また府縣立小學校或は私立小學校の存在する所では、小學校の選擇が出来るのであります。而して官立小學校といふのは男女四つの高等師範學校附屬小學校及學習院並に女子學習院、或は東京盲學校、東京聾啞學校の如

き特殊な小學校であります。この中盲學校・聾啞學校は問題外として、學習院並に女子學習院は華族の子弟を教育するのが本體であります。華族の子弟が定員數に達しない場合に限り、華族以外の子弟が入學出来るのであります。東京高等師範學校附屬小學校及び東京女子師範學校附屬小學校は何れも東京、廣島高等師範學校附屬小學校は廣島、奈良女子高等師範學校附屬小學校は奈良にあるも、單にその土地の學齡兒童だけを就學させねばならぬといふ義務關係がない。廣く全國の學齡兒童が入學を希望することも出来、實際に就學してゐるのであります。只通學の關係上、その土地居住者に限定せられることは勿論であります。東京の兩高師附屬小學校では東京市の學齡兒童だけが入學の特權があつて、東京府下の兒童は入學出来ないとか千葉縣から通學出来ない、とかいふことはないのであります。全國どこの兒童でも入學し得るのが原則であります。

また府縣立師範學校附屬小學校にはその府縣在住者の學齡兒童が入學出来る譯であります。そして私立小學校は學校經營者が自由に制限を設けることが出来、また全く無制限であることも出来ます。兎に角是等の市町村立小學校以外の小學校の存在する土地の學齡兒童は入學すべき學校を選択することが出来ます。しかし全國一般には小學校は選擇入學の自由がないのであります。

さて四高等師範學校附屬小學校並に府縣立師範學校附屬小學校及び私立小學校では二月十日までに次年度、即ちその年の四月一日より入學せしむべき児童を決定せねばなりません。また學齡児童をもてる保護者は二月十日までにその児童の就學すべき學校を市町村役場に届出て指定の小學校に就學しないことを手續せねばなりません。茲に於て小學校の入學檢定は必ず毎年一月もそくとも二月十日前に必ず行はるべきものであります。轉學は別として學齡に達した児童は毎年二月十日までにどこの小學校に入學するかその學校よりの承認書を市町村役場に届出でねばなりません。この關係からして小學校の入學檢定は中等學校の入學試験の如く、二月でも三月でもまた四月初めでも差支ないのとは異り、必ず一月中か二月十日までに行はれるのであります。「どうも困りました。小學校の入學檢定は二月末かと思つてゐました。それで父兄に注意しなかつた」などといふ保母があれば、それはこの小學校の入學承認書を二月十日までに提出すべきことを全く知らないから起る結果であります。

兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ當然入學セシムベキ學校以外ノ市町村立尋常小學校ニ入學セシメ又ハ官立、府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキ若ハ高等學校及中學校ノ豫科又ハ盲學校及聾啞學校ノ初等科ニ入學セシメントスルトキハ其ノ學校ノ管理者又ハ學校長ノ承認書ヲ添へ關係市町村長ニ届出ツヘシ。(則八八條)

## 四

さて小學校に於て行はれる入學檢定に二種あります。その一は市町村立小學校に於て行はれるもので、他の一は市町村立小學校以外の附屬小學校などで行はれる檢定であります。後者は入學せしむべき兒童を決定するが爲めに行ふ檢定であるが、前者はそうでない。當然入學せしむべき兒童であるから、入學の當初、即ち四月に於て入學兒童を檢してその精神及身體の發育狀況を調査し、その調査に基いて各兒童に適當する義務教育を施し、個性に適應した方法をとつて教育を施すために行ふ檢定であります。この檢定によつて入學を許可するか否かを決定するものではないのであります。しかし附屬小學校などに於て行ふ入學檢定、即ち一月から二月十日までに行ふ入學檢定は専ら入學兒童を決定するが爲に行ふものであります。檢定の目的は入學許可の決定にあること勿論であります。従つて中學校・女學校以上の入學試験に相當するものであることは明白な事實であります。従つて小學校によつてそれ〴〵特殊な方法によつて入學檢定を行ふものであることを幼稚園教育者も學齡兒童の保護者も領解せねばなりません。

それで私立の小學校では専ら保護者の生計狀況によつて入學檢定を行ふ場合もあれば、また一定の條件を提出してその條件を保護者に於て満足させる場合に於てその子女の入學を許可する所もあります。

また府縣立師範學校の附屬小學校では檢定の上に抽籤を行ふ所があり、また抽籤の後檢定を行ふ所があります。或はまた一部分の兒童は無檢定にて義務的に特約によつて入學させる場合もあり、また半數は檢定によつて入學せしめ半數は檢定の後抽籤を行ふといふが如き場合もあるから、入學希望學校の檢定法をよく知悉せねばなりません。例へば今年一月に行はれたる東京高師附屬小學校では入學志望者五百十餘名につき抽籤によつて四百人を入學候補者と定め、この四百人の兒童を檢定して八十人の兒童を選定入學せしめたのであります。この八十名は入學決定後、第一部第二部第三部などの部別を抽籤によつて定めるといふ方法をとつたのであります。

また東京女子高等師範學校附屬小學校では附屬幼稚園第一部より無檢定によつて二十二名小學校第一部に入學する女兒の外に、一般より二十名を募集し、更に第二部では男女各十二名、第三部では男女各十五名の兒童を募集したのであります。然るに入學志望者は第一部女兒二十名に對し、四百三十一人の多數であり、また第二部女兒十二人に對し三百三十四人、男兒十二人に對し九十人の志望者がありました。また第三部女兒十五人に對し三百十五人男兒十五人に對し九十四人の志望者がありました。この外に附屬幼稚園より無抽籤にて檢定を受くべき女兒十七人、男兒四十一人ありました。尤も第一部第二部第三部と大多數の人々は志望して居りますから、女兒の實數は四百四十八人、男兒の實數は百三十四人です。また延人員は女兒一一一人、男兒は一四一人です。附屬幼稚園よりの男女兒は凡て

第二部第三部と二重に志望してゐますから倍數に數へての話であります。兎に角二十人の女兒に對して四百三十一人といふ譯でありますから到底檢定によつて入學の許否を決定することが出来ません。

それで抽籤によつて第一部では第六十番までのものを入學候補者と定め、第二部では第四十番まで第三部では第五十番までの女兒を入學候補者と定めたのであります。而して抽籤の結果第一部と第二部と重複せるもの、第一部と第三部と、更に第二部と第三部と重複せるもの十五人ありましたから檢定實數は百三十五人、之に幼稚園よりの無抽籤の女兒十五人を檢定したのでありますから、合計百五十人あります。それから四十七人を檢定によつて選抜した譯であります。男兒に於ては志望者を抽籤によつて第二部と第三部とに定めたのでありますから、檢定實數は百三十人、その中二十七人を檢定によつて選抜したことになります。

## 五

小學校に於ける入學檢定は中等學校の入學試験と大に異なること勿論であります。中等學校にて行ふ入學試験は小學校教育を卒業すべきもの、または卒業したるものにつき行ふのであります。小學校の入學檢定は滿六歳兒の就學能力を檢するのであります。従つて學科の知識を檢すべきものでもなく、また檢することも出来ません。要は滿六歳兒として身體精神共に正常な發育をしてゐるか否かを檢するに止

まるのであります。所謂素質を檢定することが主要なものであり、發育状態を比較することが主要な檢定であります。而して滿六歳と稱するも、今年の實際をいへば大正十三年四月二日より大正十四年四月一日までに出生の者であります。一口に滿六歳といつても、四月一日滿六歳となるもの、即一月現在にては滿五年十月の年少者より、滿六年十ヶ月の年長者がある譯であります。滿六歳兒で一年の年齢差をもつた兒童發育を比較する場合に、年少者と年長者とは著しき發育差のあるべきことは當然であります。従つて身體の檢査に於ても精神の發達檢査に於ても十分年齢差を考量せねばなりません。年長者が身長の大なることは當然で、身長差を以て身體の優劣を判定することは出来ません。それで主として内科的の診斷によつて身體檢査を強・中・弱に三等級づけるか、また強、強下、中上、中、中下位に五等級となす位に止まるのであります。勿論耳鼻咽喉等を檢し、また眼の檢査をなすのであります。是等は主として入學後の注意事項を決定するに止まるものであります。勿論難聴とか著しい視力障害があれば問題となり、トラホームに罹れるものは警戒せねばなりませんから、是等が入學檢定の一重要事項となるのは當然であります。而して比較的この身體的故障は幼稚園幼兒よりも直接家庭より來る兒童に多いことは家庭の父母が兒童の身體的保護を等閑にすることに原因するものといはねばなりません。しかし幼稚園教育を受けつゝあるものにもトラホームに罹れるものあるは幼稚園保育に於て注意の足らざることを物語るもので、充分警戒せねばならぬことと思ふのであります。

小學校に於ける入學検定は専ら學齡に達した兒童の知能の發育狀態を検すべきものであります。精神發達の程度を比較するのであり、素質の良否を検するのが本體であります。従つて大人が急ごしらへに兒童に注入した知識の分量を検するのではありません、例へば數觀念が滿六歲兒としてどれ程明白になつてゐるか検するのは、兒童がどれ程寄算引算が出来るかを検するのではありません。實物をどれ程確實に數へられるかを検することがあつても只空に鸚鵡返しに、一から二十まで或は百まで數詞を唱へ得るか否を検するのではありません。滿六歲のことでもありますから普通ならば五以下の數の觀念が明白かどうか問題になる位で、十以下の數の觀念が十分明白である筈がないのであります。四に三を足していくつかと尋ねられて直に七と答へ得るのは稀であります。四を一團としてそれに一つ二つ三つと數へ足して七と答へる位が上の部であります。このとき實物がないと實物の觀念を浮かべて數へ足すか、また普通ならば四つも三つも實物がないと七つといふことの明白にならぬものが多い位であります。大人の如く數觀念が滿六歲位の兒童に明白である道理がないのであります。しかし基數の觀念がどれ位明白かを検定することは入學後の教育へ基礎として誠に肝要なことであります。

またいろ／＼の事物を觀察せしめてその相違を比較させることも滿六歲兒の觀察比較の能力を検する



もので決して知識の分量を検するものではありません。たとへばつばきの葉とやつでの葉と二枚を出して観察させる場合に於て、どの児童でもつばきの葉といふ名稱が分らなくとも、またやつでの名稱は分らなくとも、この二種の葉がちがふものと知覚認識することは勿論であります。そしてそれが二種の葉であることを知覚すれば、その相異が必ず認識せられてゐるし、その相異を明白に發表し得る程度から児童の精神發達程度が分るのであります。このとき決してつばきの葉とやつでの葉との植物學的説明を児童に要求するものではありません。然るに世間では往々つばきの葉とやつでの葉との相異などを問ふのは大變六ヶしいと誤解する人があります。これは児童の能力云々を考へず、只に植物學的知識を検するものと考へる結果であります。要するに精神發達の程度を検するのが小學校に於ける入學檢定でありますから、幼稚園教育に於ても亦家庭教育に於ても常に幼兒が正常の發育をなすことに努力せねばなりません。

# ヨーク公姫宮エリザベス女王の

## ナーセリー拜觀

宇佐美 ケイ

ヨーク公第一の女王エリザベスは我が 照宮成

子内親王殿下と御同年輩であらせらるゝので、其御日常をもれ承り度きものと懇ひ、またお許しをえたならば姫宮のナーセリー(御保育室)を拜觀いたしたいものと切望し、在英の二三友人諸姉にもはかり、ことに英大使松平夫人は種々骨打下さつて遂にヨーク公妃殿下の破格の思召によつてお許しがあり、一九二九年七月一九日松平夫人と同伴御殿に出頭することになつた。此日御一族は田舎の御別邸にお出ましにて其お留守の間に拜觀さし

ゆるされたわけである。

御殿に上ると御用係がおまらうけにて、すぐ三階にある姫宮のナーセリーに御案内があつた。リフト(升降機)から出てすぐ表通りに面した約十二疊敷位のお部屋が宮様晝のナーセリーである。ヨーク公の御殿はバッキンガム宮殿に近い相當往來しげき通りに面した、普通の住宅と軒を並べたお建物である。で通りの騒音を避くる爲めに全部二重の硝子戸になつて居り、二つの扉がある。厚い緑色のラッグがしきつめてある。(元來ナーセリー

は板敷か普通であるがまだ御幼少でいらせらるゝのと、お一方でいらつしやる故にかく敷物がしきつめてあるのであると考へる）玩具を入れた二重

戸棚が入口の左の壁に添ふて一つおかれてあり、中央と窓に添ふた所に小さな低いテーブルが一つ宛置かれてある、窓に添ふたテーブルの上に御兩親宮のお寫眞が飾つてある。小さい可愛い、お椅子が二つ、お部屋の隅に蓄音機が一つ、他にピアノもオルガンもない。他の隅の方に小さい乳母車が二つ片よせてある。これは宮様が常に押して遊ぶことになるもので中に可愛い、お人形が寝てゐる。玩具の戸棚には種々の玩具が澤山ならんでゐる。上のお戸棚には銀器の小さいカップなどその他觀賞用の玩具がならび、下の戸棚には平常御愛玩と拜されるおもちやが澤山、種々の人形、犬、猫、熊、などぎつしりならべてある。大部分の御玩具は田舎の御殿におありと御用係が話された。

お敷物は濃い緑色、カーテンもテーブル掛も皆緑を基調とした地紋、或は花模様で壁も淡緑色である。

續いてナイトナーセリーはや、おせまく、また何の御裝飾もなく、宮様の小さいベットとお附の寝台と洗面台が一つ置かれて居るだけ、宮様のベットは白ペンキ塗の周圍に高さ三尺位の格子のついた極めて御質素なものである。

次に細長い狭いバントリー（食料室）が續く、全部白壁に同じく白ペンキ塗の据えつけの食器戸棚、流し、電気コンロの小さいのが二つ、ほんの召し上るお乳をあたゝめる位に用ひるといふ事である、續いて浴室があり、其處に可愛い、バスタツプが一つ、その他に洗面用流しが鏡の前に一つ隅の方に洗濯籠がある。

よろづに極めて御質素に拜す、一言以て評し上ぐれば御簡素の言葉に盡きると思ふ。

御日常の一端を御用係から承るに、宮様の御養育に就ては妃殿下の御用意に御周到にて、一々御自身お指圖にて二人のナースがお世話申上げ、お食事その他の御起居一切ドクターリアードの意見を御信任にて其著書を御精讀なされ、それによらせらるゝといふ。

宮様は朝七時に御起床一杯のミルクをめし上る。お庭にてお遊び、九時の御朝食は御両親の宮と御一緒にめされ、しばらく母宮のお傍にてお遊びの事もあるが、大方はお庭にお出まし、午後一時に御中餐、二時から大さいお車の中にてお庭の木かげにお晝寝を遊ばす、四時にお茶、ビスケットをめし上り御入浴後七時に御寝。

尙お遊びのお相手は今特別に上つて居られぬ、すぐお隣りの子供が時々上るだけ。お稽古もまだお初め遊さず、満五歳にお達しの後佛語のお稽古をお初めの豫定の由。

小さき姫宮エリザベス殿下は英皇室に於かせられて唯一方の幼い宮様であらせらるゝ（昨年お妹の宮様が御誕生になつたが）ので殿下に對する祖父母君現皇帝皇后陛下は實に世の常ならぬおつくしみと承る。

兩陛下の間に小さいお身體をうづめられた御同列のお車を拜寫したお寫眞はよく英國の新聞にて拜見するところであつた。最も美しくあらせらるゝヨーク妃殿下と幼児として最も麗しき御發育をとげられつゝある小さき姫宮とは英國民の誇りとし愛敬の的である事を言ひ難き感激を以て拜聞したのである。

外國人である私がかくしてロイヤルナセリーの拜觀のお許しを得たに就ては親しき方々の種々のお骨折があつた、その中に私がロンドンで一緒に暮したミスサンダースといふ婦人が眞剣に心配してくれたのであるが此事に就て私が大いにかの

婦人に學ぶ所のあつた事を附記したいと思ふ。

ロイヤルナターセリーの拜觀は渡歐前からの念願であり紹介狀を認めて貰つたミスボサンケツト（高松宮妃殿下の英語の先生）から二三の友人へ其件を特に依頼して貰つた。其一人から私の希望に對し何とか取計らふ事が出来るだらうといふ手紙を受取つた。同時にミスボサンケツトの令妹（在ロンドン）も亦ヨーク公の事務官夫人に私の希望を話して下さつた。私の友人ミスサンダースはミスボサンケツト令妹と親しき間柄、切りに私の爲めに交渉の勞をせられた、一兩日してミスボサンケツトからミスサンダースに電話で、ヨーク公殿下は今日まで誰にも姫宮のナターセリーの拜觀をゆるされないから、所詮願つても駄目であらうと事務官夫人がいはるゝといふ事であつた。私は先きに可能性を多分に持つた手紙を一英婦人から受取つてゐる話をするミスサンダースは、その骨折

はむだである。かく事務官夫人がいはれ、英國人ごさへ許されぬものをお前がゆるさるゝ筈はない、人に徒勞をかけるのはよくないから早速此方の結果を報じて其方の交渉を止めて貰ふがよいといふ。私は其婦人が折角親切にいはるゝことであり、また如何なる道が開けぬとも限らぬからこのまゝにしておきたいといつても無益であると主張し、且つそんな場合にすぐ取消するのが正當だといつて常に妹のやうに私をいつくしみ導いてくれてゐるだけに殆ど壓迫的に斷りの手紙を書かせられて仕舞つた。英國人の自信力の強い事は見聞して居つたが、かうまでに自己を主張するのがにくいほどであつた。しかし一方前田侯夫人、松平夫人の親しいレデースイツリングがヨーク公御用係長と親しき間柄であらるゝので此方に願つて見やうといふ事になつて居つたので、私は此方面から道の開かれるのをひたすら祈つて居つた。

その手紙を書かされた翌日松平夫人と前田夫人から前後してお電話でヨーク公姫宮のナーセリー

拜觀がゆるされて十九日午後四時半に松平夫人と御殿に出るやうにといふ事を知らせられた。私は受話機をかけるとすぐ部屋にゐるミスサンダースの所へとんでゆき、その事を告げた。その時私は實に感服した。お、それはよかつた、お前は何といふ幸福な婦人であるか」といつて私をいだいて共に悦んでくれたその態度、私共であつたら、あれほど絶対に不可能だとまで言ひきつたが、つひ昨夕であるとしたら、一寸さまりの悪いやうな妙な氣持が先きに立ちかうと思はれるのに、何のこだわりもなく我事のように悦ぶ事の出来る眞實の友情と其明るさ、英國婦人の美しい眞實にしてありのままな特色を遺憾なく見せられたやうに思つて、物事にあつさりとなれない、無駄な心支ひに大事な精力を消費する事の多い自分を直みて恥かしく

も亦この點をこの國民に學ばねばならぬと思つた事である。

松平夫人の當日のお話に妃殿下に數日前に拜謁の時「日本の貴族の幼兒教育の任にあるといふ事であるならば何か參考になる事もあらう、ゆつくり見るやうに」と仰せられしと承り感激に滿たされた次第である。



# 保育といふこと（ノートの中から）

平安女學院保育科 大塚 喜 一

幼稚園の保育に於て主力を注ぐべき要點は、幼兒の自然なる具體生活を保ち育てることであつて、こゝに教育と云はずに特に保育といつた意味があると思ふ。幼兒の「あそび」なるものは、知情意未分の具體生活即ち一つにまとまつた「體」を具へた全き生活であつて、この生活を爲すことにより、幼兒の心が圓滿にどちらにも偏らずに成育してゆくことが出来るのである。従て保育の「保つ」とは、未分の未しきものを分化以前の渾然たる状態に於て保つといふ事である。既に分化したものは、其程度の發達段階を終へたものであつて、決定されたる即ち教育的價值より云へば可能

性が現實となつて現はれたものである。そうした一段の發達を卒へた後の教育即ち小學校上級及それ以後の教育と、その段階にまだ達しない前の幼稚園の保育とは、明に色彩を異にすべきものである。即ち形がまだ定らない飴のやうな流れやすい粘土のやうな可塑性に富んだ状態から、知情意の心の働きやいろ／＼の性格に漸次に形成されんとする途中にあるのが丁度幼稚園時代なのであるから、此の途中の状態に於ける独自の特色ある心の働きを十分にさせておくことは、やがて分化し發達した小學校時代に至つて、無限に豊富な内容をその中から開發せしめ得るものとを育てゝゐるので

あつて、こゝに保育獨持の使命の尊さがあるのである。にも拘らず、それを人爲的に早く成長させようとするのは、折角豊富な内容を後年に産み出すべき寶庫の製産（醸造）能力を興へられてゐる幼児期を強ひて短縮しやうとする人間の淺はかなは、からひであつて、自然に反するは勿論、實に惜むべき限りである。吾人保育の任に當る者は、斯うした特色をよく理解し味得して幼児の天性を尊重して保育すべきである。

將來成長すべき性格のもとを育てるといふ意味で、幼稚園の保育は人生の基本教育であるといふ事が出来る。今迄述べて來た要點を、教育目標に移して考ふれば、幼稚園の保育は、將來の圓滿なる人格の基本的陶冶を目標とすべきものである。といふ事になる。基本的とは、いろ／＼の性格が大人の生活に於けるが如き状態にて（例へば一々

の徳目として）養はれるのではなくして、そうしたいろ／＼の性格が出て來るものと（素地又は根源が養はれ培はれてゐるといふ意味である。従て、一々の性格又は徳目の教育が部分的であり分化的であるに反し、性情の保育は全體的であり具體的である。故に、保育の良否或は自然不自然は、後年の性格の全體に影響する。

幼稚園時代は幼児のいろ／＼な氣質の持徴が浮き出し初むる時期であつて、夫々の長所を伸し短所を矯める事は性情教育（殊に情緒の保育）の重大なる任務であるが、こうした努力は各個性を既製の大人の性格に早く固めてしまふのではなくして、以上述ぶるが如き幼兒本來の具體生活を全うせしむる事に向けらるべきであると考ふれば、此處に述ぶる所と附合すると思ふ。生々潑潑たる幼兒の心の琴線に觸れてそれが如何に爲さるべきかは本文を記す事に當つて吾人の最も頭を悩ました



所であつて、此點は眞摯なる保姆諸彦の教を乞ひたいと思ふ。

此方面の思索と體驗との知行合一的精進は、實に最も力を注ぐべき保育の重心點であつて、血あり涙ある多年の精勵により保育界に貢獻せられつゝある先輩諸賢を初め、幼兒の友となつて純真なる處女の母性愛に生くる幾多の若き同志の方々が此の保育本來の使命に向つてその生々しき體驗と感激とを披瀝せられ、一般保育界に清新の滋味を與へらるゝと共に、我等學究の徒にも貴重なる資料を提供せられむことを切望する者である。

今迄述べて來た所を實際に當てはめて云へば、幼稚園の保育に於て最も大切な事は、幼兒達の力一ばいに面白く遊ばせるといふ事になる。凡そ幼兒は一般に、自分の好きな遊びをする時には我を忘れて餘念なくあの小さい身體からあふれ出るあ

りつたけのエネルギーを全部當面の生活にぶち込んでゐる。かう書いて來た筆者の眼前には去年の初夏の頃、東京の成城幼稚園での或る日の光景が展開されて來た。砂場で遊んでゐる一團の幼兒達、山を造る者、池を掘る者、トンネルをうがつ者、水を運ぶ者。小さい手のとどく限りの深い穴を堀つてゐるので、おかつばさんの髪の毛が垂れて砂がついてゐるのにも氣付いてゐないらしい。小さいバケツに一ばいに水を入れて重さうに持つて來る。水が少してぼれて足にかゝつた事位に頓著せず、友の作つた池の中へ流し込むや又嬉々として噴水の方へ水汲みに走る。お歸りの時間になつたので、僕は保育室で幼兒の人数だけのオヤツをお皿に入れたが一人も入つて來ない。がかうしたみつしりした遊びの時が五分——七分と經つた。オヤツですよと窓から呼んだが、丁度其時窓の下をかけてゐた元氣な男兒が「もう少し待つ

て」と答へただけで、他の兒童は僕の呼聲がきこえなかつたのだらうと思はれ、位遊び、そのものに全精力を傾注してゐる。彼等は各自自己の當面の生活に没頭しつゝ、しかも其間に働く或る相互作用たつごころによつて遊びの面白さ（熱と力）が充實し進展してゆくものゝやうに思はれる。此の相互生活たるや、小學上級生の如く意識的計畫的でなく、むしろ自然の環境の中に成立し圓熟して來た半意識的な色合を多分に持つてゐるだけ、純真な生一本な幼兒の生活としての尊さがある。僕はこうした情景に一種の畏敬の念をさへ起さずには居られなかつた。幼兒たちは決して自分勝手な事をしてゐるのではない。彼等はむしろ彼等の背後に動いてゐる或る目に見えざる大なるものゝ命のまゝに忠實に致々營々として活動してゐるのであつて、彼等の眞劍なる態度——頬の色、眼の輝きはこの大なるものゝ如實の顯現である。フレイベルの發見せ

し「神性」も亦實に是に違ひはない。

斯かる熱心な遊びは、其深淺の差こそあれ、幼稚園の生活の本體ともいふべきのであつて、幼兒の朝の登園の際の新鮮にして潑刺たる心の動きを捉へて、彼等と共に生き共感し共鳴しつゝ、その自然の心理に副ふて（知らず識らずの裡に）こうした眞劍な生活態度に迄導き入れて來る所に保姆の最も大切なる働きがあり、そこに殊更に教へるのでもなければ單なる放任でもない幼稚園の保育の積極的價値が發揮される譯である。

談話・遊嬉・唱歌・手技・觀察等の各保育事項は、何れも幼兒の生活の自發的な具體的な相互的な「本義」を益々發揮せしむる事を主眼としなければならぬ。例へば、お話のリズムや表現の反復や音聲の感情的表現や動物の擬聲等が幼兒の心理の法則を守る話者の眞摯な態度によつて演出せられ

る時、是等の諸効果は相俟つて幼児の魂に天來の妙音を傳へ恍惚として聞き入るのである。筋肉運動の内的感覺に律動的快味を體驗せんとして幼児はスキップ、ダンス其他の遊嬉をなすのであるから、遊嬉の選擇指導觀賞等に際しては、この要點に着眼し其遊嬉が如何に幼兒の生活の進展に役立つてゐるかと思ふべきであり、決して感覺的な外形美に眩惑して不自然な練習を強ひてはならぬ。

心の中にあふるゝ情緒の發表手段として幼兒は唱歌を歌ふ、實に原始藝術に於て詩は散文に畫は文字に先だちて發生せしものである。厚紙製の飛行機、粘土にて造れる自働車、木工細工の建築等の單純素朴なる作品は幼兒獨特の現像を活躍せしめ理想と現實との融合せる假象の世界に彼等を遊ばしめ、かくして彼等の生活を進展せしむる好適の資料となる。路傍の一木一草も幼兒の觀察の對象となれば冷かなる理科學的解剖の臺に載せられず

して温かなる情意の零圍氣に包まれ、其生活の圈内に參加せしめられる。斯の如くにして、保育事項の自然にして潤澤なる導入により最初は斷片的であり我儘倦怠等の不純分子を混入してゐた遊びも次第に充實した面白いものとなり、更に圓熟せる具體的に相互生活の中からは、新しいいろ／＼の保育事項が期せずして産み出さるゝに至るであらう。(昭和五年末記)



# 幼児が喜び歌ふ歌

(3)

葛原 しげる

幼児の歌ふ歌は、最も單純を悦ぶだけ、無駄のない表現を要します。ところが、世に多い童謡や、ことに童話の中には、どうしてもよい説明が長くて、そこに無駄のある作品が多く見當ります。

私の庭の草花が

芽を出し 葉を出し さのふから

すつかり大きくなりました

毎朝毎晩下駄はいて

私が水をやりますと

すぐに吸ひます 悦んで

これは、「お庭の草花」の第一節なのですが、此

の中に、無駄があるとの評を、何かで讀んだことがありますが、その無駄とは、「下駄はいて」の句なのです。

なる程、庭の草花に水をやりますのには、下駄でなくて、草履でも靴でもよく、また裸足でもよいのです。履物には關係はないのです。それだけ「下駄はいて」と斷はつてあるのは無駄だとの評には、同感でもありません。しかし、此の作の童圖は『歩きにくいのに、小さな足に大きな下駄を穿いて大きな如露を辛うじて兩手で持つて、水を草花にかけてやつてゐる』ほどの感じが先へ主にあつ

たのでした。前に、ヨヘイ君か、ユメ二君かの圖で、そんなのを見た心持もしてゐて、大きい下駄が目について仕方がなくて、一番にその句は、浮んで來たのでした。

しかし、そんな情趣は、只、「下駄はいて」とのみの短句の中には、盛られてゐませんから、「下駄はいて」を止めて、何かに替へようかとも、時々考へてゐますが、曲との結合が、あまりしつくりしてゐますので、まだ果さないでゐます。只今も考へてみたのですが、

「庭に出て」  
でなければ

「らもうとと」「ちとうとと」

それとも

「姉さまと」

にしませうか。何うも

「兄さまと」

ではないやうで。又、全然、狙ひ所をかへて、

「一ばんに」

といへば、たとへば、おぢい様よりも早くか、子供心に誰よりも先んじて、私がやる所に、童心の跳躍もありはしますか。

もし、どこかの幼稚園で、此の句は、脱ぎにして五つの音の歌詞を、子供さんたちに探がさして見て頂けませんでせうか。

マイアサ　マイバン　ラララララ

ワタシ　ガ　ミヅ　ヲ　ヤリマス

と歌つてさかして、「ララララ」の代りに、何かよい詞ことばはありませんか、と、訊いてみて頂けないでせうか。

○

私共作者としても、舊作を教へて見たり、歌つて見たりして、意外な缺點を發見する事が時々あつて、困つてをります。作曲者梁田氏は、自作の

お人形を教へて見、歌つて見て、作つた當時よりは、又、別な氣持も働いて、ずる分困つて、私に、歌詞の改作を求めてくれました。次の二様の中。どちらが、本當に善いでせうか。私は時々、舊作の方がよくはないかと感じたります。勿論、どちらも、作曲者と協力して決定した歌詞ではありますけれど……。

## (甲)

一、私の人形 おとなしく

いつも 笑顔で ニョ／＼と

まだ 一ぺんも 泣きませぬ

私が お守をしますから

二、人形 よい子よ おとなしく

お目々を つぶつて お休みよ

私は いつも ついてます

ねんねん ちころり お人形

## (乙)

一、人形 いい子よ おとなしく

いつも笑顔で ニョ／＼と

まだ一ぺんも泣きませぬ

私が お守をしますから

二、人形いい子よ おとなしく

お目々をつぶつて おやすみよ

はよはよはよ おつむりよ

ねんねんちころり お人形

此の最後の「ねん／＼ちころりお人形」は作者の詞です、そして

私は いつも ついておます

の母らしさの氣持を否定して

はよ／＼／＼ おつむりよ

と變へたいと主張したのも作曲者です。なるほど、その方が、待ち切れないあどけなさ分つて善い

とも考へますが、さういへば、第一節の「私がお守をしますから」も、母らしさです。これは、生かして、後のを、否定した方が善いでせうか。又

いつも笑顔で ニコ／＼と

は、重複してゐますね。「ニコ／＼と」は「笑顔で」の事ですから――。

いつも ひとりで ニコ／＼と

とても直しませうか。

人形が、一度も泣かないことや、お目々をつぶつて寝よといふこと、それは共にあまり非常識ですか。いえ／＼、幼児は對照物が何であれ、皆、自分と同じ生活をしてゐるもの、するものとのみ少しの不安もなく、信じてゐるのですから、幼児の世界の常識が、大人の常識と類を異にしてゐる所以でもあるのですから……。

これは、後に作りました お客様 と同じく、私共が少年時代に習ひましたナシヨナルリーダー

卷一の人形の病氣からヒントを得ましたもので、大人の眞似をしたがる幼児の心理を描いた積でゐます。

○

文部省唱歌の「小馬」の歌詞の、あまりに消極的であるのを、元氣のよい馬に對して、氣の毒に思つてゐる私の小さな緊張は、元氣百パーセントの歌を作らせました。

お馬 ヒン ヒン

バカ バカ とべよ

山でも 坂でも 一とびに

とびこえ とびこえ

勢こめて

進めよ 進めよ

日本のお馬

どこまでも元氣の善い馬です。お前が進めば私

を突破した優越のうれしさ。

○

蛇足を加へてならないのは、繪ばかりでない。

餘韻を尊ぶのは詩ばかりではない。曲に於ても、あるものは、ぶつ、さらばうにまで、思ひきる。

然るに、幼兒唱歌の、あまり短かいのは、あつけなくて、もつと歌ひたがる心の芽を、ちよんぎる様に殘忍であるといひます。

あれ あれ

あそこに 鬼が来る

皆で、早く かくれませう

帽子も

お靴も 見えないやうに

これは、初期の「かくれんぼ」の歌詞の凡てとした。『鬼ごっこ』や「かくれんぼ」は、最もシンブルな遊戯で、幼年期から、少年期までの子供が

も進む」のではありません。進む進まぬが問題になるやうな事は毛頭ないのです。あくまで、ヒン／＼バカ／＼です。山でも坂でも一とびにです。「とびこえとびこえ」なのです。その上、「勢こめて」なのです。それこそ「日本のお馬」ですもの。「お前が轉べば、私も轉ぶ」から、轉ばないやうにしるとか、「つまづくまいぞ」などと、そんな弱いことは、馬の本性ではないのです。あくまで、『前へ進め』です。

しかるに、「日本」が、ニホンになつてしまつて、どうしても、ニッポンの強い破裂音に歌へないのは、今に、残念です。只、曲の工夫で、「二本」に聞えないだけ、悦んでゐます。近頃の本は、「ミス、ニホン」は結構として、「ミスター、ニホン」でなくて、「ミスター、ニッポン」でせうものを。

かくて、歌は曲に生き、曲は歌に生れます。さるにても、歌曲の六かしさ、また、その六かしさ



等しく喜ぶもの、それだけ、これだけの歌では、幼児も、決して満足しないらしいといふので、その次の場面をも新作して加へる事にしましたところ、意外にも長いものになつてしまつて、今では却つて、覺えられなくはないかと心配してをります。

尙、第一節は、初期の原作とはかへました。

しつ しつ 靜かに

おしづかに

皆で はやく かくれませう

帽子も お靴も 見えないやうに

としまして、第二節以下を

二、おや／＼ どこまで逃げたらう

どこまで にげて かくれたらう

何でも探して すぐ見つけませう

三、それ／＼ 靜かに 鬼が来る

息をも つかずに しつかりと

かくれてゐるまに それ／＼ 鬼よ

四、とう／＼ 見えたぞ 見つけたぞ

背中を出して かくれてる

かくれてゐたのは 手と足ばかり

ともして見ましたが、これも作曲者と、いろ／＼に歌つて見て、全然、別に、

二、そつそつ、そろ／＼ 出かけませう

一二三四… 皆さん もういゝか

あちらに、こちらに、かくれたやうね

三、しつしつ、あれ／＼ 鬼のこゑ

小さなこゑで「もういゝよ」

一生懸命、おさがしなさい

四、ほつほつ、ほら／＼ 見えてゐる

あそこに、ここに、見えてゐる

帽子も、お靴も、あんなに出して

五、面白いは、かくれんぼ

皆の好きな かくれんぼ

ほんとに をかしな かくれんぼね

として、震災後の版は出したのでした。

いかに、幼児も好きな遊戯で、よく知つてゐる

事柄ばかりだとはいへ、覺えられますか知ら。

(以上、大正幼年唱歌「第一集」)

# 全國保育大會に就て

氏 原 銀

昨冬帝國教育會の主催で、全國保育大會が盛大に開催された狀況は、舊冬十二月號の幼兒教育誌上で、會員諸氏に御承知の事ならん。其際は私の如き幼兒教育上に何等功績なき者をいと厚き優待を辱ふした事は、老後の光榮此上もなき感謝に堪えず。就きては私の我國に於ける、最古の保育者の一人として、聯今昔の感想を述べんに、今より五十六年前の明治九年の秋、官立幼稚園として東京女子師範學校附屬幼稚園が創設せられ、夫れより四年目の明治十二年に、大阪府立幼稚園と鹿児島縣立幼稚園の二つの設立あり、翌明治十三年には、我國最初の公立園として、大阪市に愛珠幼稚

園と仙臺市木町通幼稚園の二つの設立あり。夫れより全國に漸く公私立幼稚園の設立ありしも、明治十六年に至り、幼稚園の總數は僅かに十一園となり、明治十八年に至り三十の幼稚園數となり、夫れより五十年目の昭和元年に至り九百三十三の園數となり、昭和三年度の調査にては一千二百九十四園となれり。昭和六年の今日にては尙園數の増加したるべく、其他托兒所又は農繁托兒所としての保育場を合計する時は、其數は二千に達すべく、斯く幼兒教育の普及せし折柄、全國保育大會開催の盛況の有様を、五十六年前我國幼稚園創立當時にありて、幾多の配慮を以て盡力せられし、

東京女子師範學校の中村攝理園監事松野豊田近藤の三保母の五先生方に御覽に供して、今日保育事業の進歩發達の状態を親しく御視察を願ひて、御満悦のさまを拜し度も、今は豊田英雄先生のみ御健在で、他の四先生は數年前永眠相成りて、之れを爲すに由なき事の遺憾の極みなり。此際豊田先生を會より招待すべく相談の有りし事ならんも、先生は八十五歳の高齢にて單身御出京の出來兼ね尙視力も弱くなられし上に歩行も運びにくくなられし事として、來會の事は却て御迷惑と察して招待の事は見合となりしと推察せり、私は老體なるも幸にして此盛會の席末に列せし事を限りなく感激する次第なり。

以上我國幼稚園創立以來今日に至る五十餘年間の長き歲月に於ては、其従事者は諸種の方面に對し忍耐と努力を拂はれし事ならんも、近時其基礎學科の研究により、保育事業は大に進歩發達し、

其保育振りは歐米の幼稚園に比して遜色なしとの事を、昨年歸朝せられし、猶崎博士より承りたるもの之れは博士が歸朝後、在東京の優秀なる幼稚園を參觀せられての御意見なるも、我保育者に取りては大いに意を強くするに足る、尙博士は歐米の幼稚園の主義はフレibelとモンテッソーリの兩様を併用せりと言はれたり、尙今日歐米の教育者の研究は哲學的に人間を見たる方針により、深刻化し來れり、依て此考を以て進まん事を警告せられたり、尙歐米の學者は世の犯罪者を無くするには、幼時期の境遇と教育の如何に出發點を置くものに有る事を一致せり、年長じては我等骨を折りて導くも効なしと。益々幼兒教育の必要を認む。又幼兒心身の活動性に満足を與へんとして其行動の如何を省みず、放任主義を以て之れが抑制を加へざるは、恰も動物の活動に類するもので教育の本分に非ず宜しく制裁を加ふべしと。明治十二年

我國第二番目の幼稚園として、大阪府立園の開業式後當時の知事渡邊昇氏は、教育は嚴正の意義を離れざる考を以て任に當れよと訓戒せられたり、依て大阪府に於ける三十年間の在職中は此意を尊重して従事せり時に嚴に過ぎたりと思ひし事もありしが、幼兒の爲と思ひてなせし事もありし。

帝國教育會に於ける全國保育大會の祝賀會場は、其廣き室内も處狭き迄に、食卓の排列せられ、約五百に近き會員一同の乾杯の歡聲は室の内外に充溢す、昔時の思ひ出に古き保育者諸氏の舊唱歌民草の合唱あり、其遊戲の手振りには神戸幼稚園望月氏の演ぜられ大喝采なりし。茲に其舊唱歌民草を現代の譜に譯して左記す何卒御試みありて昔時の俤を味はれたし。

舊唱歌 民草 一段二等伶人東儀季芳選譜<sup>一越調</sup>  
<sup>律旋</sup>  
 たみくさの さかゆるときと なはしろに  
 つせさいれて みしめなは ゆたにひきはへ

4/4 は 調 民 草 一 段

6 6 5 5	6-0-	5 5 3 3	2-1 2	3 3 5 5
タミクサ	ノ	サカユル	トキト	ナハシロ
6-0-	5 5 3 3	5-3 3	2 2 2 1	2-0-
ニ	ミヅセキ	イレテ	ミシメナ	ハ
1-2 2	6 6 5 5	6-5 7	6-5-	3 3 5 6
ユタニ	ヒキハヘ	ヤツカ	ホノ	タリホノ
6.5 6 5 6	5-3-	5 5 3 3	2-0-	1-2 2
イ-----	ネノ	トシアラ	ン	ココロ
3-5-	6.5 6 5 6	5-3-	2-2 7	6-5-
タ---	ノ-----	ミチ	イ---	マ---
3-5 3	2-2 1	3-2 1	2-2 1	2-0-
オ---	ロ-----	ス---	ナ---	リ

やつかほの たりほのいねのとしあらん  
 こころたのみをいまおろすなり

舊唱歌 民草 二段

わたすみゆ さとのこか ものすそぬらし  
 きみのためとや たまなへをうそ  
 くじのためとや

三段より七段迄を省く

4/4 は調 民草 二段

6 6 5 3	2-0-	1-2-	3-5 3
サトノコ	カ	モ	ノ---
6.5 6 5 1	5-3-	5-3-	2-0-
ス---	ソ-	ヌラ	シ
1-2 2	6 6 5-	6-6 5	3-5-
タ--マ	ナヘチ	ウヘ-	ウ-
3-5-	6.5 6 5 6	5-3-	2-0-
タ-	ス---	ミ-	ヌ
1-2-	1-2-	1-1 7	6.5 6 5
キ-	ミ-	ガ--	タ---
6.5 6 1	2-2 1	2-0-	6-6-
メ---	ト--	ヤ	クニ
5-3 5	6-5 3	2-2 1	2-0-
ノ--	タメ-	ト--	ヤ

舊唱歌 民草 八段

とよとしの みとしにあひて やつかたる  
 ひすのすすをたきこらす かまとのけふり お  
 ちこちに じきはひみちて みたみらか さと  
 もととろに うたひつつ ゑらくをみれば や  
 すらけき みよのめくみは めてたさるかも

4/4 は調 民草 八段

3 3 5 5	6-0-	5 5 3 3	2 2 1-
トヨトシ	ノ	ミトシニ	アヒテ
6 6 7 7	2-0-	2-2 1	2 2 1-
ヤツカタ	ル	ニヒスノ	ヌスナ
6 6 5 3	2-0-	3 3 5 5	6 6 5-
タキコラ	ス	カマドノ	ケフリ
1 1 1 1	2-0-	2 2 7 7	6 6 5-
オチコチ	ニ	ニギハヒ	ミチテ
3 3 5 3	2-0-	1-2 2	6 6 5 5
ミタミラ	ガ	サトモ	トドロニ
6-5 6	1-2-	2 2 2 7	6.5 6 1
ウタヒ	ツツ	エラグチ	ミ--レ
1-0-	2 2 3 3	2-0-	2-2 1
バ	ヤスラケ	キ	ミヨノ
2 2 7 7	6 6 5 3	2-2 1	2-0-
メグミハ	メテタキ	ロカ-	モ

(昭和六一月氏原記)

## コドモ座誕生日の日に

千葉縣女子師範學校附屬幼稚園 渡部 きよ

十二月十四日、今日はコドモ座誕生日、去年の今日私共の園では初めて幼児達に人形芝居を見せた日でした。(小兎とライオン、浦島太郎) 思ひなやんだ末にいろいろの物を組み合はせてどうやら物にした時の私共の喜び、幼児等の喜びは大したものでした。今日は又一年間のおぼつかない努力の跡をふりかへつて見て日頃の希望もだん／＼いれられていくらかでも理想に近づいて來た様に思はれるこの喜び、共に嬉しい／＼日です。幼児等の何より樂しみな土曜日は又私共にも待たれる樂しい日になりました。本校の講堂である劇場に各

兒が手に手に切符を持つて(廣告の紙を細く切つたもの)喜び勇んで出かける足どりといひ、あの嬉しそうな顔といひ、これだけでも私の希望は達せられた様に思はれて嬉しくてなりません。しかし過去をふりかへつて反省して見る時にまだこの人形芝居を通していろいろの方面によい經驗を得、參考になる材料を興へられた事を非常に喜んで居ります。人形芝居が幼児保育の上に及ぼす効果の數々はいつぞや倉橋先生から伺はせていたゞきましたので皆様も御存じの事と思ひます。私はこの人形芝居が私共保育の任にあたる者にもいろいろ

の効果と與へてくれるものと思はれます。今私の感じました二三の例をあげて見ますと、

第一には幼児等の日頃の遊びの中に時々この劇が表はれて来る事で御座います。劇と云つても一つのまとまつたものではなく一幕の内のある部分のみの場合と全體を通じて覺へた言葉、興味に、乗つたところばかりを一緒にして幼児等同志で組立てたところの一つの劇ですから勿論幕の切れ目もなく又辻褄の合はないところが出來て居ります。しかしこれを演じて居る幼児等は勿論、見物してゐる幼児等も大喜びで居るのに驚かされる時が度々御座います。それも初めが面白い事には鬼ごつこから遊びが發展して來て「七匹の小羊」になつたり、おまゝごとから「赤づきん」のお芝居になつたり役割も勿論幼児等同志で定められるのです。でも時々にくまれ役の狼とかライオンとかには希望が少いと見へて保姆とか實習生を呼びに

まゐります。そして何度も何度も同じ事か操り返されるあの心理にはいつも驚いて居ります。こんな表はれが良い事か悪い事かまだ私には分かりませんが、しかし遊びの様子が如何にも面白そうで一才の無理もなく七、八名から十二三名の幼児が平和なグループを造つて氣持よく遊ぶ事だけでもわるい事ではない、かと思ひまして幼児のするがまゝに現在も續けて居ります。こんな風に表はれて來るものは脚本の内容が幼児等の興味と合つたもの、又二三度重ねて見たもの、何度も聞いてゐるお話等であります。又私の失敗した経験によりますと浦島太郎のタコ踊を幼児等の喜びにまかせて一幕の中に二回も出した事がありました。其の時には一寸滑稽的にまねされて困つた事も御座いました。こんな事から考へても脚本の内容や表はし方等には充分氣をつけなければならぬと思ひました。間接興味を起す事にのみ骨折つて徒らに幼

兒等の末梢神經を刺戟したくないと思ひます。

第二はお話に對する子供の心理的發達がよくわかると思ひます、幼兒は芝居を見るものであるかしら、聞くものであるかしら、又お話も時によると見てゐる時が多くはないかしら、といふ事をつくづく感じさせられました。年齢によつて相違はありますが、とに角小さい幼兒はたゞ舞臺に表はれた人物を眺めて喜び、ぼんやり過してしまひはしないかと思はれる事も御座います。舞臺の中の人物がはつきりわかつてしまふまでは言葉は耳に入らないのかも知れませんが一二回重ねて見るものはずつと言葉の方にも理解が出來てまゐりませんがとに角小さい方の組の幼兒は初めての時は見るのがやつとの様ですから脚本のつくり方又實演に際しての言葉づかひ等の早さには相當注意をはらつてやらなければなりません。大きい組の幼兒になりますと直接内容の方に興味を持つて早く事の運

びを知りたい様に一生懸命注意し想像してゐる様に思はれます。又幼兒等には動物に生命を入れて想像する事は容易であつても靜物に生命を入れて想像する事はよほど進んでゐる子供でなければ困難だといふ事がはつきり納得されました。去る九月下旬に秋の果物を人物にして八百屋のお店を仕組んだ二幕物を見せた事が御座いました。私の考へとしては幼兒の生活に近い物だからさぞ喜ぶだろうと思つて豫想して居りましたところ案外な結果を得ました。喜んだ事はすいぶん喜びましたが、小さい組の幼兒はたゞ登場する色々の果物がめづしらくて言葉等には耳をもかさずに終りまで自分勝手な果物の話をして喜んでゐた幼兒もあつた様に思ひました。大きい組の幼兒には相當内容の興味を感じた者があつた様に思はれました。大人の世界からは割合に遠い様に思はれる春日様、ち星物の方が幼兒等には相當近いものである事も察せ



られる様になりました。以上一、二に表はれました所を見ましてもお話の材料、選擇、方法等にも相當考へさせられると同時に又一方には大變よい參考となりました。ゼスチャーを多く使つて間接興味ばかりに骨折る事もどうかと思はれますし、小さい幼児はやつぱりお話をも見てゐる様に思はれる時も御座いますのでこれらの程度については充分考へる必要があると思ひました。

第三は幼兒等の個性觀察の機會が與へられる事で御座います。幼兒係として保姆一名に實習生二三名は必ず幼兒等と一諸にお芝居見物をしてありますのでいろいろの機が與へられて各兒の個性が相當はつきり分つて來る様な氣持がいたします。

其の他にまだいろいろ細い事が御座いまして自分の失敗も何かと參考になつて居りますがあまり長くなりますので又の機會にゆづりまして誕生當

時より改良されました舞臺について一寸お話しただし度いと思ひます。

舞臺は一間に一間の組立式にいたしました。どこへでも持ち運びが容易に出来る様にいたしました。組立た舞臺の天上と片側には黒と白のカーテンをさざられる様にして御座いますのでいくらか明暗もつけられますし、又懐中電燈も使用して時の氣分を出して居ります。背景、人物、等はあまり改良されては居りません。だん／＼慾が出てまゐりまして時々大人の考へからまゝとまり過ぎた感じの物を造つてしまひそうです。倉橋先生の御言葉を拜借して申しますならば「まづさの程度」をこさない様注意して居ります。しかしどの程度がまづさの丁度良い程度かも今のところはつきりいたして居りませんので皆様方からもいろいろの御發表を伺はせて戴いて尙進んで行き度いと思つて居ります。

只今では保姆と實習生とで七種ばかりの物が實  
 演出来る様になつて居りますので事故の起らない  
 限り毎土曜日には各組の幼兒等が（一組約三十五  
 名）ゆつくりと二つ位のお芝居を見物出来る様  
 になりました。幸ひとお茶の水の幼稚園から脚本集  
 を出していたゞいて居りますから今後共幼兒等の  
 樂しみをつゞけて行かれる事と喜んで居ります。

ほんとに浅い／＼經驗では御座いますが私にと  
 りましては初めての嬉しい／＼事で御座いまし  
 た。終りに臨みましてお茶の水の先生方からもい  
 ろ／＼御教へいたゞきました事を深く感謝して筆  
 を止めます（五、一二、一四）



よ し こ

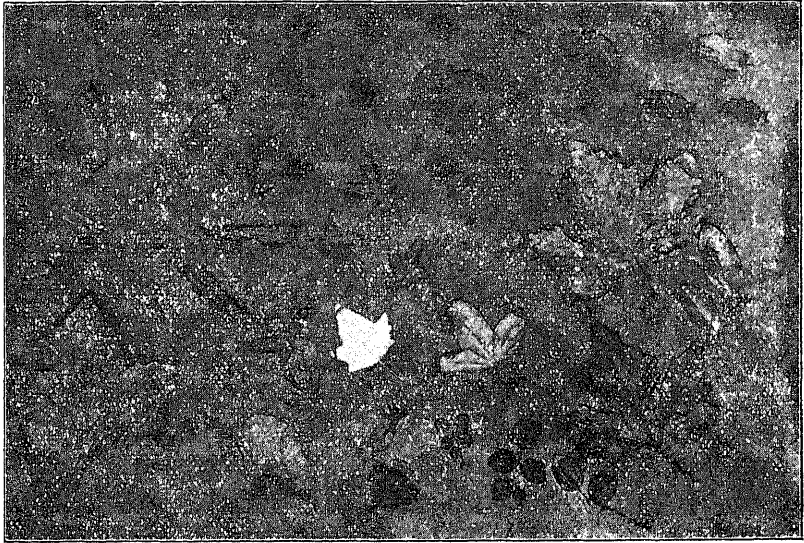
○保育室の花をかへんと春の朝十分早く  
 電車に乗りぬ

○久にして心なご和みぬこの朝あした株椴竹の葉の  
 ちりぬぐひぬて

○人形芝居終りたるらしこの室は小さき  
 拍手のつゞけり 今や

○兒この胸の高なりす手あてしまゝにかき  
 抱かかき黙もしぬぬ數十秒（あらそひにまけ  
 し子をかばひて）

○雪どけの水はちろ／＼と樋より落ちても  
 の寂かにも暮れゆく夕べ



# おち葉をひろひて

新庄 よしこ

笹　　ぶだう　　ひるがほ　　ポプラ　　ばら  
もみぢ　いちふ　　すゞかけ　　榎　　くぬぎ  
へちま　あぢさゐ　　等、等

右のおち葉を集めて黒ラシャ紙に貼りたるが上  
圖の寫眞。是等は殆んど幼児と共に拾ひ來しもの  
にて園内或は本校　女學校、小學校等の木々の葉。  
ずつと前に拾つて來て何かにしようと思つてお  
いた、散歩の折、目についたので何とはなしに拾  
つておいた、こゝに列べる爲にとて特に拾つて來  
た、それ等の集りである。

初冬の午後陽を背にうけて貼つてゐると、もの  
静かな三四人の子はヂッと見つめてゐる、こんな

のもあるとて選り出したり、こゝへおいた方がいいと口を添へてゐる子もある。

すつかり貼り了へてから保育室のかべに貼つておいた。二三人或は一人でも、この前に立つて居るのを見かけるとうれしい氣がする、ゆびさしでもして話し合つて居る時は猶更のこと。

同じ種類の、つまり枯葉とか落葉とかいふ物の一つの種類の中には、こんなにもいろとりどりの葉がある、大きい、小さい、細い、太い、茶色の、黄色の、白のとさまざまに變つたのがあるといふ事が幼児にわかれば一つ一つの葉が何といふ名であると嚴格に知らせなくてもよいであらう。殊に日々保育室で親しく見るのであるから珍しいものを一度見せたと云ふよりはよい觀察の材料にならうといふ師の言葉は、丁度秋口から拾ひ集めて籠やら箱やらにあふれてゐたおち葉を貼らずには居られなかつた。さうすれば枯葉に限ら

ずたやすく手近によい材料がある様な心易さをも感じる。

或時この前に立つてゐた子に聞いて見た。知つてゐる葉の名を、いてふ、もみぢ、笹、ばら等は大きいの子は知つてゐる、中にはあぢさゐがある筈だと云つてさがしてゐたものもある。

十一月の未神田三崎町通りを保育大會へと歩み行くつま先にふと目につくすゞかけの大き葉、拾ひあげて家に持ち歸つて机のはしにしばらくあつたがいつの間にかなくなつてしまつた。かうして列べるならあの葉も惜しかつたと話せば、翌朝先生の一人が幼稚園の机の上のせておいて下さつたので喜んだもの、これもこの中にまぢつてゐる。

# 二月の手技材料

目白幼稚園 和田 實

例の通り、二月中旬から三月中旬迄の手技材料に就いて考へて見ませう。

雑遊び。三月三日のちひな様遊びは我國古來の風習から云つても、又、幼児教育上の家庭問題から云つても、捨てることの出来ない年中行事の一つでせう。今月の幼稚園作業として、先づ是を選ぶのは當然のこととせう。夫れで、ちひな遊びを如何に組織するかと云ふことが、最初の問題です。是に就いては色々の案があるでせうが、最も普通に行はる可き様式としては、先づ、幼児をして、ちひな様の一揃を作らせ、次に、適宜なお道具も

作らせ、斯くて一組のちひな様を各自に完成させ、之を當日、適當に壇上に飾つて、鑑賞すると共に、其前で、お話やら、唱歌遊戯やら、面白き遊びして、雑に供養することを以て、幼児自らをも樂ませることとあります。尙當日、其樂を扶ける爲めに、菓子種で、煎々を作つて幼児に與へることも、悪くはないでせう。變つた考案としては、大きさ七八寸位(直径)の壁掛を作り、之に紙雑を押し繪して見るのも面白いでせう。其方法は、先づボール紙(十オンス位)を直径七八寸位に圓く切り之に白い紙を帖る。(白い紙を帖る代りに白

ポル紙を最初から使つても宜しい)次に、おひな様の顔は圖畫紙を適當に剪りて、適當の位置に帖る。顔は子供には書けないでせうから、先生が適宜書いて遣る。次に、着物は一丁紙があれば夫れを使つて切らせ、中に綿を入れて台紙の上に帖らせる。此細工が一寸困難でせうが保育の終る頃の子供としては二三度先生の模範を見れば出来る筈ですから、成る可く簡易な形を工夫して置いて、子供の見て居る所で、一二度行つて見せて、真似させる可きでせう。背景には桃の花を帖紙で帖り、桃の枝は色紙を紙く切つて適當な形にして帖るか、或はクレオンで書けば宜しいでせう。おひな様の雄雛の冠は金色の紙を適宜切つて帖れば宜しい。是れで大體出来ましたが、尙台紙の周圍は金色が銀色の紙でふち取りをして、夫れが上方に適宜に紐カリボンで「提げ」を作つて、是れで仕上りです。雛まつりの時は之をおひな様と一所

に飾つて遊び、歸りに持たせて歸すと、家庭では適當の所に暫くは柱飾か壁飾として母様の部屋を飾ることとせう。之も面白い案だと思ひます。由來、押繪と云ふものは婦人の手藝として、昔は能く行はれたもので、現在も、羽子板には随分精巧なものもある位で、中々興味の多い手技であります。其の簡簡なものは、幼兒にも出来ますから真似させることもよいと思ひます。

今一つ、變つて考案としては、雛遊びの當日、おひな様の全部の人形に子供を使つてすることに於て、其衣裳やお道具の全部を紙其他のもので間に合せて、おひな様になる子供、官女になる子供、左右大臣、使丁の様なものも全部子供に遣らせ、其前で、お内裏様の爲めに皆んなが色々の事をしてお見せする。最後には内裏様も何かして、皆んなに見せると云ふ様な仕組みにして、之を當日は子供の家庭の人を招待して見せることです。

是れは、少し大仰で、そして手技の部分は其準備をすることの間にあるばかりですが、併し、手技としては變つた仕事があつて面白いと思ひます。内裏様の冠、左右大臣の冠や弓矢、官女の使ふ道具、仕丁の必需品等夫々に用意が必要でせう。其他、御殿になる舞台の裝飾等も色々用意が要るでせう。是等の準備は手先の細かな今迄の手技と大部趣きは違ひますが、又夫れだけに面白味も違つた趣があつて、却つて、好い結果があらうと云ふものです。殊に男の子には斯うした大袈裟な仕事に氣に入つて今迄と違つた意氣込を見せることでせう。當日の前の日に煎々を作ることになれば、そして、之を子供の仕事に出来るならば又一層、面白い仕事となります。原料の煎種の必要量と之に相當する砂糖、醬油を適宜の器物に入れ、汲み出す適宜の道具と共に用意し、別に七輪二個大鍋二個を用意する。そして、先づ七輪に火を起し、大

鍋の片方に煎種の若干を入れて火に掛け、今一つの鍋には砂糖と醬油とを適當に入れて火に掛け、砂糖が適當に煮えた頃、煎種の適當に煎り上つた頃に、煎種を砂糖の鍋に移して煎り上げる。煎り上つた煎々には別に大きな器物に移して置き、又前と同様な方法を繰返して煎々を作る。先生は傍に立つて指揮と監督とを適當にすれば仕事は相當に進んで行きます。火加減と味と煎加減とに注意して遣れば他は子供に皆出来る仕事です。火を遣ひ、砂糖を煮ると云ふことで、子供には危険ではないかと云ふ心配もありませうが、道具立てが適當なれば、そして、手順が都合よく行く様に整へてあれば少しも危険はありません。勿論、先生の監督と道具の適當と云ふことは、何よりも大事なことです。鍋がひつくり返り易かつたり、かき回すはす道具や、汲み込む道具が不適當であつたりしては砂糖がこぼれたり、醬油がたれたり、果ては、

煮立つた蜜で子供が火傷しないとも限りませんが、是は道具の適當と監督、指揮の宜しきとで、充分に補はれるものです。以上の注意が適當に拂はれるならば料理の必要と面白味とを経験させる遊びとしては適當なものと思ひます。更に、當日此煎々を會衆に頒つのに、袋なり、箱なりを幼兒に作らせるならば、茲にも一つ、適當な仕事が見付かるでせう。斯くて、雛遊びは頗る愉快な遊びとなるでせう。

雛遊びが濟むと次に來るものは幼稚園の卒業製作です。幼稚園の仕事を記念する爲めに、何かまとめて置くことは好いこととせう。尤も、然様の意味でなく、單に幼稚園の卒業式の當日、陳列して父兄に見せる爲めにのみ作るとしても宜しいでせう。茲では、寧ろ後者の意味で書いて見ませう。卒業式當日の陳列品としては圖畫、折り紙、厚紙細工、粘土細工等が普通ですが、個人製作の

外に一組のもの、合作も面白いと思ひます。

圖畫、圖畫は自由畫と寫生畫とを半々位に出したいと思ひます。何れも材料を豊富に提供して、自由な製作を充分に行らせて其中の良成績物を二三點づゝ、まとめて大きい紙に貼り付けるか一冊の綴つたものにして置くがよいと思ひます。合作の方法は色々あるでせうが、例へば、動物園の背景を先生が大きく書かれたら、之に各幼兒の書いた動物を切り抜いて帖るがよいと思ひます。そして、台紙の一方の端に各幼兒の製作品名と氏名とを表示して置くがよいでせう。大きい台紙へ直接書かすことは出來、不出來があつて取換が出來ませんから、都合が悪いと思ひます。或は大きい景色の内の空色と地面とを先生が書いたとすれば木や家や人や犬や山や、橋などを子供に書かせ之を切り抜いて帖り付ければよいでせう。

折り紙 折り紙は子供の出來る丈を作らせて、



之を全部銘々の箱入として陳列するのも面白いと思ひます。子供に因つて澤山出来るもの、少しきり出来ないものなどもあるでせうが構ひますまい。そして、是には合作の必要がないでせう。次には

厚紙細工。是は色々面白いものが澤山出来るから、數種の細工を行つて見て、出来る面白いと思ふものを探つて、陳列品としても宜しいと思ひます。合作としては、例へば町と云ふ題で、菓子折の古いのを利用してもし或は新に造るとしても何れでもよいのですが、兎に角、色々な家と店と役所と學校と云ふ様なものを作らせ、之を先生の指導の下に一つの町を机上に模造しても面白いと思ひます。次には

粘土細工。數種の製作を行らせれば自然適當な陳列品を求めらるでせうから別に書く程のことはあるまい。尤も製作の種類が一定するよりは各自

の自由に任かして色々ものが出る程、見る人の面白味は多いでせう。

以上の外、豆細工、縫取等も出来ますが然る可く取捨して時間の餘裕次第にするが宜しいでせう。是で卒業製作は終りましたが、卒業迄の中に一二度は是非、行らせて見たいと思ふことは水繪の具の使ひ方です。クレオンで色塗りすることは能く慣れて居ますが本當の繪の具は又變つた面白味があるので、一度は經驗させて遣りたい様に思ひます。夫れには此時期を描いて、他に適當な時がありません。が併し、随分、手數も掛り、机や床を汚す様なこともあるでせうし、又衣服などを汚さぬとも限らぬので、一寸面倒ですが、準備を能くすれば随分出來ると思ひます。其方法としては先づ机上を新聞紙の類で充分に被覆して置き、其上に四人（差向に坐した）に一組づゝ繪の具を皿に盛り與へる。繪の具は赤、緑、空色と

黄とで宜しいと思ひます。それから子供には輪廓とつた塗繪の紙を興へて一度模範を示して子供に行らせるのです。子供の悦んで行<sup>や</sup>ることは請合<sup>や</sup>ですが、繪の具を垂らしたり零<sup>こぼ</sup>したりしない様に注意することです。又塗り方に就いて色々注意しなければならぬことはありますが是は繪に應じて其時々々に注意す可きて「一般に豫め」と云ふ譯には行きませぬまい。兎に角、斯様にして二三度實行するとクレオン以上に繪の興味も發展する様に思ひます。此際使ふ筆は水採畫用のもので、巾三分位の小さいもので宜しいと思ひます。日本の普通の毛筆は使用が六ヶ敷くて、幼兒用に向かない様に思ひます。

### ○保育實習科新卒業生

今年も亦二十四名の新しい保母が、此三月を以て、お茶の水の保育實習科から巢立たうとしてゐます。一ヶ年といへば短いようですが、實習本位の教育方針のもとに、入學以來、幼稚園で受けた鍛鍊は、並々の學校生活とは、全然違つた修行であつたに相違ありません。「理論や熟達は容易のことでないが、幼兒の爲めに骨惜しみしないことと、園の爲めにまめ／＼しく働く癖だけは、是非修行して置いて貰らひたい」とは、主任の倉橋先生が、始終若い人達へ言つてゐられる言葉です。其のいゝ修行を早く實際に役立てられるよう、保育界の爲め、皆さんの爲め、切望にたえません。

(みどり子)

おひなさま

及川ふみ

ふきの葉が霜柱の間から二三つ頭をもち上げるのを見るといつも私は春も近い中です...といつてくれる様な氣持がしてお雛様の事を考へます。

今年のおひな様は口繪の寫眞の様につくつて見ました

内裏様

圖の様に千代紙や伊豫杵に謄寫しておいて丁寧にさらせます。親王様の方は小豆茶の地に櫻の模様のあるもので襟まわりは黄色です。内裏様は赤地に小櫻模様で襟まわりは黄色です。

三官女

第二圖の様に桃色の伊豫杵に謄寫してきります、襟のまわりと袴は赤です。

五人囃

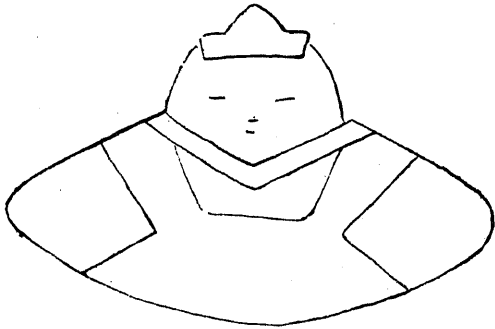
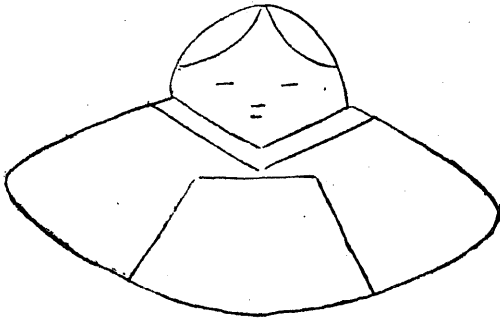
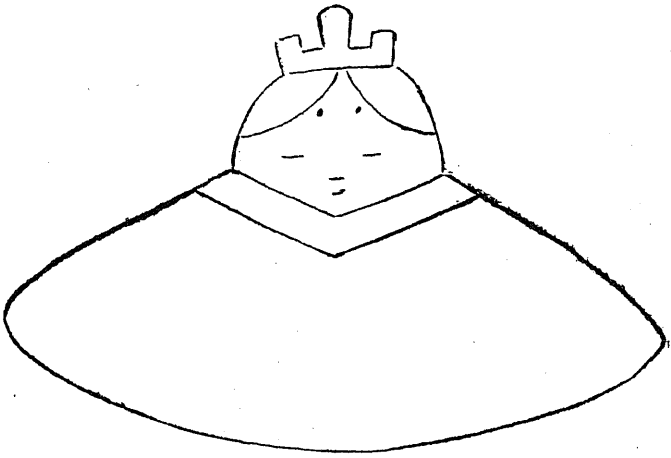
第二圖の形を黄色でつくります襟のまわりと袴は綠色です。

櫻橋

直徑四センチの圓形の一部をかき櫻の方は桃色の地に赤の小丸を六つはり橋の方は緑の地に黄色の小丸を六つはります二本の木は茶色で柵は黒い紙です。

顔の部分はいづれも畫用紙で着物の後の部よりはりつける。

台紙はボール紙の出来るだけ厚きものを直徑三十センチに圓くきりこれにじみな緑の伊豫杵をはる。



# 嫁接法の種類

大 岩 金

## 一、切接法

此の方法は我が國では昔から廣く用ひられてゐる方法でありまして其の方法は先づ砧木を掘りあげて根を整理致します。即ち根を長短のない様に七、八糶の長さに切斷し、所謂砧木は五、六糶位に切り其の切口は利刀で平滑にしておくのであります。そして接穂即ち求める種類の木は、——二芽が省いてゐる程度にして切り頂芽のある側の皮を脱ぎ砧木はその穂をして密着させる様に平滑な部分の皮をそぎ取るのであります。要するに活着させるには砧木と穂との形成層を密着させる様にする事でありませす。それで密着させてラフイヤ又は打葉等を用ひまして縛るのであります。それで普通揚接するのに用ひられる砧木の大いさは直径一——二糶のものが好都合でありましてそれよ

り大きくなりませすと穂を二——三本も接ぐことがあります。尙更に大なるものでありますとこの仕方では結果が面白くありません爲根部から六十——九十糶も上の所で裁斷して接木する事もありません。

又接穂は一年生のものに限られて俗に土用芽といふ部分は切捨て、その下の部即ち中央部を使用するのであります。

接木の終つたものは豫て用意してゐいた苗床に植付けるのであります。それには先づ堆肥の様なものを充分敷き込み土壤を膨軟にし畔幅六十糶位とし深さは二十糶餘の溝を掘りまして穂は見えない程度に埋めるのであります。

右の様な方法は砧木を掘りあげて接木するので揚接と稱します。此に反して植付けられたまゝで

接木するのを居接と申します。揚接を行ふ種類は主に梨、桃、苹果、枇杷、梅、柿、葡萄等何れの果實にも行ふ事が出来ませんがその中、柑橘、柿、桃、栗、葡萄は何分活着し難いものでありますから居接の方を用ひるのが安全であるとされて居ります。

尙居接にも覆土は必要であります。特に前者の覆土は降雨の爲などに崩れた時は再び覆土するやうにせねばなりません。その他に見廻はつて砧木の萌芽等は丁寧に除去せねばなりません。穂の芽が伸びて來ましたならば支柱を立て、保護してやるのであります。それで好成育をする時は種類によりましては一年内に一米以上も成長するもののであります。尙穂の芽が十四、五糎及三十糎位に成長した時に好く腐熟した人糞を各一回宛施し夏期に一——二回も同様の肥料を施しますと良成績を得られるのであります。

それで揚接と居接の得失でありますが揚接は居接に比して仕事が容易で能立が上りますけれども活着割合は居接の方が好成績であります。

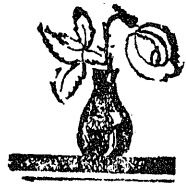
## 二、割接法

この方法は高所で接木する時とか砧木が大きい時等に應用されるものであります。特に葡萄は小さくても主にこの方法が用ひられて居ります。

先づ割鉋を用ひて砧木を割つてその割口へ穂を挿入するのであります。で砧木を割りましたならばその割口は滑になる様利刀で削るのであります。穂はその割口に合ふ様楔形に滑に削るのであります。穂は同大ならば兩方の形成層を密接させますがよいのであります。穂が小さい時は砧の一方で密接させ一つの割口へ二本の穂を挿入する事も出来る譯であります。又十字に割りますと四本の穂を挿入する事が出来るのであります。

で挿入しましたならば縛つて尙雨水を防ぐ爲に雨除を造ります。と同時に鳥等の止ることに依つての被害をさける爲に豫め竹等で止木を造つておくのも一策であります。

尙大木に行ふ場合は相當高所で行ふ事と共に一時に施行せず先づ三分の一又残りの三分の一といふ風にして一部づゝ接木して行くのであります。



## 「幸吉の旅」

東京女子高等  
師範學校教授

岡 田 美 津

### 九

もうあたりが薄暗くなつてゐた。彌平爺さんは、毎晩のことながら、どうしたら、自分の手も足も、動かさないうで、牛を牧場から連れて來られるかしら、と考へてゐた。幸吉の姿は、どこにも見えなかつた。もし、幸吉が居れば、その位のことは、爺さんに代つて、悦んでしてくれるし、御禮には「ありがとよ」と丁寧に言つてやれば、それでよいのだつた。さて、幸吉が居ないとなると、金公に頼むのだが、金口ときたら、しみつたれな奴だから「ありがたう」だけぢや、動きはしない。その代り一錢やれば、やつてくれさうだつ

た。爺さんは、煙草に火を點けて、池の側の柳の下に寝そべつて、暢氣に、唄をうたつてゐた。

「彌平さん！ 彌平さん！ 幸吉は、牛を連れて行つたの。」と、お崎は、幸吉を探しに來たのだつた。

「知らねいよ。俺の方でその内、おめいさんに尋ねようと思つてたんだ。」

「幸吉が行つたかどうだか、一體どうして分るんだい。」

「それはな、幸吉が行つたのなら、牛が歸つて來てゐるし、行かなかつたのなら、牛は居ないだらうぢやねいか。俺にアどつちでも、いゝんだ

が。いつだか、こゝへ避暑に来てゐた物識りの人がなア、『ぢつと立つて待つてゐる者も、やはり神に仕へるのである』つて句があるが、俺にもつて来いの格言だつて、言つてゐたつけ。俺も、尤だと思ふなア。あの、あすこにゐる魚！素晴らしいぢやねいか。俺も、魚になりたいな。」

「フン、お前さんが魚になれア、鱗ひれを使ひへらすことなんぞ、あるまいよ。」

「これ／＼、お崎さん。一日働はたらいてゐた俺だ。さう虐いぢめなさんなよ。俺に起きて、幸吉を呼んで歩けといふのか。」

「そんな事してくれないでいゝよ。聲なんか出してもらふと、こんだ聲をひつ込めるのが、面倒になつても、お氣の毒だからね。私や何か、したいと思へば、するだけの元氣があつて、自分でするから、ありがたいことか。」

「お崎さん、おめいさんは、あんまり氣きが強くて、何でも獨りでする／＼ツて言つて、折角してやらうつていふ俺たちの樂たのしみを奪さらつちまふんだな……、」

「一體、お前さん、何時いつ幸吉を見掛けたの。」

「正午ひひごろから見ないな。晩飯ばんはんに歸かへらなかつたか  
ソ。」

「歸らない。お前さんと一緒に居ることだと思つたのに。ぢや、牛を連れに去つたんだらう。だけれど、お腹なつかが減へるだらうに。どうも變かだね。」

お鎌さんは、臺所の、明け放した窓の近くに坐つて、菊嬢きくぢやうを膝ひざに抱かかいてゐた。菊嬢は、眠ねむさうに、從順おそしく、可愛らしい恰好かたがひをしてゐた。

「坊や、こゝのお家うちの子こになりたいかへ。」とお鎌が訊くと、

「あア、兄にいちゃんも、こゝのあうちの子こになユなな  
ら、あたち、こゝのあうちの子こになユな。あたち



小母ちゃん好き、お崎小母ちゃんも好き、おぢ  
いちゃんも好き。しいいニヤゴ好き、しいいう  
ちも好き。きエいなおべいと、きれエなおにん  
によと鶏と、あたり、みんな好き。」

「兄ちゃんが、よそへ行ってしまつても、坊やは  
おとなしく、このお家に居るだらう。」

「いや。兄ちゃんが 行つてしまへば、あたり、  
おとなちくちて居ない。兄ちゃんが、行つてし  
まへば、あたちも行くの。あたち、兄ちゃんの子  
よ。」

「でも、坊やは、まだ小さいから、兄ちゃんと行  
かれないの。」

「そんなア、あたり、泣くの。ドタバタやユの。  
して見ちエようか。」

「いゝえして見せないうで宜しい。と、お鎌は、大  
急ぎで止めて、坊や、一番誰が好き？ この小  
母ちゃんかい。おちやき小母ちゃんかへ。」

「あたり、兄ちゃん一番好き。」

「いゝもの上げるから、このお家で、この小母  
ちゃんの子におたりな、ね。」

「ウン、あたり、このおうちに居て、兄ちゃん  
の子になユの。小母ちゃん、すこし、ひといで  
おあちよびなちやい。あたり、下りて、お崎小  
母ちゃんとこへ行くの。おにんによ、ねかすの  
おにんによ、眠いんだつて。」

丁度、お崎が臺所へ入つて来て、

「もう、八時半なのに。幸吉はどこにも居ない  
ですよ。彌平さんも、正午からあと見掛けな  
いつていふんです。」

「お前折角の計畫が駄目になるかと思つて案じて  
ゐるんだらうが。お心配無用だ。この家から  
出て行くなんて、あの子に行き場所が、他にあ  
るものか。とお鎌は、あてつけたやうに、言ひ  
放つた。」

ところが、幸吉は、この家を出たのであつた。

× × × × × × × ×

「緑川 の堤に沿ふて半田の森といふ静寂な、美しい林があつた。緑川は日にきらめきながら、迂曲して流れ、今や、別れ去らうとしてゐる山々と最後の會釋をかはしてゐるやうである。びらうどを敷きつめたかと思える草原は、川邊に下りて、溢れさうな盃を口にしようとして、身を屈め、川沿ひの樹々は、おのが姿を、水鏡に映さうとして、袖や裳を濡らしてゐる。

此方にある池では、葦が、風のまに／＼ゆらゆら靡き、鶉が翼を、水に浸してゐる。彼方にある小路は、牛がのろ／＼とやつて来て、川縁に立ち止まり四方の景色を眺めてから、さて首をさし延べて、飲むワ／＼、神のさこしめす酒かとはかりに、飽くまで、水を飲むでゐる。

此處で、幸吉は、ありつたけの思ひを眼に籠め

て、この美しい景色に「さよなら」をしてゐるのだつた。かれの傍には、いづくまでもと、ポチがお伴をしてゐた。ポチだつて、今までの豊かな生活を思ひ出すと、残り惜しさの涙が出ないでもないが、お主人の惱みを増してはならぬとの忠義な心で、その涙を押しかくしてゐた。

幸吉は、英雄ではなかつた。が、英雄になる素質を備へてゐたといつてよからう。かれを感激させ、かれの想像力を燃え立たせれば、かれはどんな素晴らしい行爲を仕遂げないとも限らない。幸吉は、今、どれほどのものを自分が捨てやうとしてゐるか、これから先の自分には、どんな事が來るのか、確に知つてゐた譯ではない。この子に分つてゐた事は、お鎌さんが、子供二人は、多すぎると、判然言つたこと、しかも、邪魔なのは、自分なのだといふことゝであつた。その上に、かれはこの緑川の村で、自分を貰はうといふ者は、

誰もないが、自分が傍にさへ居なければ、菊ちやんの行くところは澤山あるといふ事を、一度ならず聞いたのだつた。お崎さんに、四つ葉のクローバを持つていつた時、ちらとかれの耳に、入つたのは、養育院といふ言葉であつた。種々考へ合せて見て、かれは大體の様子を推察したのであつた。幸吉は、死んでも、院といふ字のつく家へは行くまい。これだけは、心にはつきりと決めてゐた。院も結構だ。よその子供には、それも宜からう。だが、自分としては、院は嫌ひだ。何としても、院に行く氣はない。さて、院に行かないとなると他に途がないといふでもない、かれは考へた。もと／＼所持してゐた一圓八十五銭は、今までもある。ポチと自分は、先刻も、黒莓と、堅パンを、大馳走だと思つて食べたのだつた。それに、かれは、年が行かないから、目の前の事より他は何も考へないのだつた。併し、かれは自己犠牲にとい

ふ崇高な行ひをしてゐるのだといふ意識に支へられてゐたのではないから、かれの心は樂しかつたとは言へない。かれは、樹の下に仆れて、

「誰も、僕を要る人がないんだ！ 今までだつてさうだ！ 一體、どうしてだらう！ みんな、

菊ちやんを可愛いがつて、貰ひたがる、それは不思議ぢやないけれど、（ポチやもつとびつたり

お寄り。お前と僕と世の中二人きりだ…… オ

イ、そつちのポケットに首を入れるよ。こつちには、パンが入つているんだぜ）僕あの肉屋の小僧さんのやうだつたらいいな。あの小僧さん、時々僕を車に乗せてくれたり、肉を諸方へ届ける時に、僕に、馬の手綱をもたせてくれたつけ。それでなけりや、僕、萬屋へゆく途中のあの家にあるそばかすだらけのあの男の子だといふな。あの子のお母さん、始終、あの子を心配しちや 門のとこへ出てくる。僕、金公でも

い。金公は、三年の間にお母さんが三人、お

父さんが二人出来たんだつて。彌平のお爺さんが言つていたつて。彌平のお爺さんは、僕を、愛がつてくれるけれど、お爺、んのうちへ貰はれるわけには行かない。お爺さんのお母さんといふ人が、ゴチャ／＼ひとが居るのが嫌ひなんだつて。お崎小母さんには家がないし……、だけれど僕は、出来るだけのことをしたんだ。湊小路から逃げて、菊ちゃんに、良いお家を見付けてやつたんだから。お母さんが二人もあるんだ。菊ちゃんが大きくなつたら、僕の事を聞かせてやつてくれるだらう「そうすれば、僕は、菊ちゃんを、あとに置いて行きたくなかつたのが分るだらう。菊ちゃんに、そんな事知らせたつて、知らせなくつたつて、菊ちゃんは、赤坊なんだから、大きい子は、ちいさい子の世話をするのが、當り前だ。僕は……」

幸吉は眠つてしまつた。

× × × × × × × × × ×

この間に加藤の家では、騒ぎが持ち上つてゐた。夜の九時だつた。お崎は、池から庭へ、物置から納屋へ、門から搾乳場へと、何回となく、行つて見たが、幸吉の影も見えなかつた。菊ちゃんは兄ちゃんが、歸つてくるまで着物をさかへないと言つてゐたが、とう／＼眠つてしまつて、お崎に抱かれて、二階へ連れて行かれた。お崎が、菊ちゃんの脱いだ着物を取り上げると、その懐ぶくろから、疊んだ紙片が落ちた。お崎は、打かへし／＼それを眺めて、それを讀んでみた。それから、一寸前掛のかけでひと泣き、泣いて、急いで、階下のお鎌さんと、爺さんが居るところへ降りていつた。「これ、どうです！」と泣いたり笑つたりしてお崎は驚いてゐる二人の前に、その紙片を置いた。これは、幸吉の手紙です。あの子は家を出

たんです。ほんとに、無理もないと思ふ。あんな、神様みたやうな子を追拂つて、野天のてんに曝さらして、それで、まあよかつたといふ人もありませうが！これを、すつかり讀んでごらん下さい。なんていふ子を追出したものでせう。」

× × × × × × × ×

おかまおばさんと お先おばさんとで あたいをこゝに おけないで いていたの あたい氣いた。そして、たれも あたいを もらはないて。それからインのことも いていたね。あたい、インは 氣らいだから、にげて行くの。矢へおぢさんに、とりの 玉子 かへして下され。あたい、も一つの 玉子 こわして すみません。でも あれは つひしたのです。キイチちゃんを、だい地ちにして下され。あたい 里さとばになて キイチちゃん 向むかひにくるから。おばさん ながなが ありがと。こゝの内、せかい中

で いちばん、きれいな、いゝ内です。 幸吉

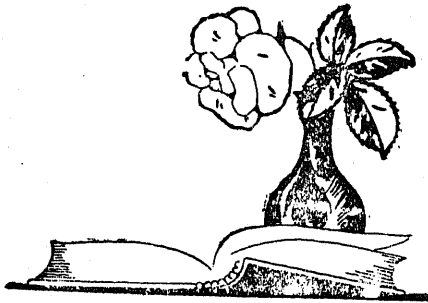
あたい こゝの内うちにいるなら いはないけれど、キンコウは、牛に 石 ぽるの。あんなことすると 牛のちゝがわるくなる。さよなら。 幸吉。

あたい さよなら いひたいけれど、インのことが しんばいだから、こゝに かいておきます。

キイチあんさよなら でお先おばさんさよなら おかまおばさんさよなら 矢へおぢさん さよなら

この手紙はお鎌さんの 慄おそへる指先から 落ちた。そして 涙が ポタ／＼と その眼から 落ちた。「あゝ すまない事をした！」と稍しよしばらくしてから お鎌は言つた。——お鎌が こんなに情なさけに動かされたのは 珍めづらしい事だつた。私わたしみたやうな 心こころの頑かたくな女おんなはない。なんとかして

この罪亡<sup>はな</sup>ぼしが 出来ないかしら。この子は、  
私がかこひいきをしたつて 一言だつて 恨み  
がましいことを言はない！ 顔みた最初つから  
私は、あの子に 心が惹かれてゐただけれど  
あの子の眼が 死んだお政の眼に似てゐるので  
昔の事が……、私がお政に 辛く當つて 勘辯  
をしてやらなかつたことなんか、思ひ出され  
てね。もし 私が、あのお政を、も少し 可哀  
いがつて、居心地よくしてやつたら、家出もし  
ないで すんだらうに。それに 私は、儉約  
儉約つて つましく暮らして お金を溜めこん  
でさ。銀行に 何千圓つて貯金があり、この邊  
での大地所持ちになつてるのに、子供二人位育  
てられないなんて いつたりして……。お崎や  
私のシヨールと帽子をとつておくれ——彌平、  
お前 お玉を馬車につけておくれ。あの子が  
どこぞに居るものなら、探し出して連れて戻る



のだから！ あの子の連れでもあるなら、それ  
も一緒に連れて来て、食べたも寝たりする位  
は、らくにさせてやらう。」  
(つゞく)

# 雜 錄

## ○東京女子高等師範學校 保育實習科生徒募集

(二月二十日の官報による)

一 入學セシムヘキ生徒ノ概數 凡二十四名

### 二 學 資

學資ハ總ヘテ自費トシ授業料年額金五十五圓ヲ徵收ス

### 三 入學資格

本科ニ入學スルモトヲ得ル者ハ左ノ各號ニ該當スル者タルベシ

(一) 身體健全品行方正ニシテ保姆タルニ適當ナリト認ムル者

(二) 左ノ資格ノ一ヲ有スル者但1又ハ2ノ學校ニ在學スル者ニシテ當該學校長ニ於テ本校

ノ入學期以前ニ卒業スヘシト認メタル者ハ當該學校ノ卒業者ニ準スルコトヲ得

1 師範學校又ハ高等女學校ノ卒業者

2 專門學校入學者檢定規程ニ依リ卒業者ニ

就キ一般ノ專門學校入學ニ關シ修業年限四

ケ年以上ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ

學力ヲ有スル者トシテ文部大臣ノ指定ヲ受

ケタル學校ノ卒業者

3 前項ノ外專門學校入學者檢定規程ニ依リ

一般ノ專門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受

クル資格ヲ有スル者

4 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定

ニ合格シタル者

(三) 昭和六年四月一日ニ於テ年齡十六年以上

ニシテ夫ヲ有セサル者

### 四 出願ノ手續

(一) 三ノ(二)ノ1又ハ2ニ該當スル入學志願

者ハ出身學校長又ハ當該學校長ノ推薦ヲ要ス  
 出身學校長又ハ當該學校長ニ於テ入學志願者  
 ヲ推薦セラルルトキハ推薦書ニ別ニ定ムル様  
 式ニ依ル入學志願票・履歷書・戶籍謄本・學  
 業成績調査及人物考定書・身體検査書・寫眞  
 (手札形、半身正面、提出前三箇月以内ニ單身  
 撮影シ台紙ニ貼付シタルモノニシテ其裏面ニ  
 志願科氏名及撮影年月日ヲ記載シタルモノ)  
 及入學檢定料(志願者一人ニ付金參圓、現金  
 朝鮮銀行券及臺灣銀行券ヲ除ク)ヲ添ヘ出  
 願期間内ニ於テ本校ニ送致セラルルカ又ハ出  
 願期間内ニ到達スルヤウ價格表記郵便(入學檢  
 現金トスルトキハ)定料ヲ  
 此ノ郵便ニ限ル)又ハ書留郵便ヲ以テ本校ニ送  
 付セラルヘシ

推薦書・入學志願票・履歷書・學業成績調査  
 及人物考定書並ニ身體検査書ノ各記入用紙ハ  
 本校ヨリ交付スヘキニ付本校ニ就キ所要數ヲ

受領セラルルカ又ハ本校ニ對シ郵便ヲ以テ所  
 要數ヲ請求セラルヘシ

- (二) 三ノ(二)ノ3又ハ4ニ該當スル者ハ直接  
 本人ニ於テ四ノ(一)ニ記載セル書類(推薦書  
 ナ除ク)寫  
 眞及入學檢定料ヲ出願期間内ニ本校ニ送致ス  
 ルカ又ハ出願期間内ニ到達スルヤウ價格表記  
 郵便又ハ書留郵便ヲ以テ本校ニ送付スヘシ
- 四ノ(一)ニ記載スル書類(推薦書  
 ナ除ク)ノ各記入用紙  
 ハ本校ヨリ交付スヘキニ付本校ニ就キ之ヲ受  
 領スルカ又ハ本校ニ對シ郵便ヲ以テ之ヲ請求  
 スヘシ此ノ郵便ニハ返信用ノタメ宛名(住所  
 氏名)  
 ヲ詳細ニ記載シ且貳錢切手ヲ貼付セル封筒  
(半紙版ノ縦四ツ折ノ大  
 ギサヨリ稍大ナルモノ)ヲ封入スヘシ
- (三) 入學志願者ニシテ現ニ教職ニ在ル者、服  
 務年限中ノ者ハ四ノ(一)又ハ(二)ニ記載セル  
 書類ノ外監督長官ノ承認書ヲ添付スルヲ要ス
- (四) 入學志願票ニ記入セル事項ハ出願手續ヲ



履ミタル後ニ於テハ何等ノ事情アルモ之ヲ變

更スルコトヲ得ス但再ヒ四ノ(一)又ハ(二)ノ

手續ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

(五) 入學志願者ハ出身學校長又ハ當該學校長

ノ推薦ヲ受ケタルトキ又ハ本人ニ於テ出願ノ

手續ヲ履ミタルトキハ自ラ本校ニ就キテ受験

票及受験者心得ヲ受領スルカ又ハ郵便ヲ以テ

其ノ交付ヲ請求スヘシ此ノ郵便ニハ返信用ノ

タメ宛名(住所)ヲ詳細ニ記載シ且參錢切手ヲ

貼付セル封筒(普通ノ日本封筒ヨリ稍大ナルモノ)ヲ封入スヘシ

### 五 出願期限

出願期限ハ昭和六年二月一日ヨリ三月十日マテ

トス

### 六 選抜試験・身體検査・口頭試問

#### (一) 選抜試験

##### 1 科目

國語(解釋・作文) 理科(物理) 圖畫(自

在畫) トス

##### 2 日時

選抜試験ハ昭和六年三月二十日左ノ時間割

ヲ以テ施行ス

自午前八時三十分

至同 九時三十分

自同 九時三十分

至同 十時十分

自同 十時十分

至同 十一時十分

場所

選抜試験ハ本校ニ於テ之ヲ施行ス

(二) 身體検査及口頭試問

昭和六年三月二十日午前十一時三十分ヨリ施

##### 七 雜件

(一) 受験者ハ昭和六年三月十九日午前九時ヨ

リ午後四時マテノ間ニ於テ本校ニ出頭シ諸事

承合スヘシ

- (二) 選拔者氏名ハ昭和六年三月二十一日午後三時頃本校事務所前ニ發表シ別ニ通知ヲ發セス

## ○奈良高等師範學校

### 保姆養成科生徒募集

一、修業學科目。修身、教育及保育法、兒童心理、生理衛生及育兒法、圖畫、手工、音樂、遊戲、理科及園藝、保育實習

一、修業年限。一箇年

一、入學志願者資格。入學志願者ハ操行端正身健全年齡二十五年未滿ニシテ夫ヲ有セス左記各號ノ一ニ該當スル者タルヲ要ス

(一) 女子師範學校、師範學校女子部又ハ高等女學校卒業者

(二) 専門學校入學者檢定規程ニ依リ卒業者ニ付一般ノ専門學校入學ニ關シ修業年限四年以上ノ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有

スル者トシテ文部大臣ノ指定ヲ受ケタル學校ノ卒業者

(三) 前記諸學校在學者ニシテ當該學校長ニ於テ現學年内ニ卒業スヘシト認メタル者但シ該學年内ニ卒業セザリシトキハ其ノ入學出願手續ハ總テ無効トス

(四) 前記ノ外専門學校入學者檢定規程ニ依リ一般ノ専門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

(五) 専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定合格者

一、入學志願手續。入學志願者ハ入學願書ニ履歷書、學業成績并人物考定書(當該學校長ノ親展書トシテ添付スルコト、前項第四號、第五號ニ該當スル者ヲ除ク)、身體檢査書、戶籍謄本及入學檢定料ヲ添へ出願期限内ニ直接本校ニ差出スベシ

入學願書ニハ本人身上ニ關シ一切ノ事件ヲ引受クルニ足ルヘキ父兄若クハ後見人其他親戚ノ中ニ就キ保證人ヲ定メ連署スルヲ要ス

入學志願者ニシテ現ニ就職其ノ他官公職ニ在ル者ハ又ハ服務義務ヲ有スル者ニアリテハ前記書類ノ外所屬長官ノ承認書ヲ添付スヘキモノトス  
(女子師範學校在學者之ニ準ス)

- 一、入學檢定料・金參圓トス現金又ハ郵便爲替ヲ以テ本校ニ納付スヘシ一旦納付シタル入學檢定料ハ何等ノ事由アルモ還付セス
- 一、入學者選抜。入學者ヲ選抜スルタメ學科試驗、身體檢者及口頭ヲ試問ヲ行フ

(一) 學科試驗

(1) 學科試驗ノ學科目及其ノ程度

國語。解釋及書取

數學。算術、代數、幾何

圖畫。寫生畫(素描)、鉛筆畫)

音樂。唱歌||新作ノ歌曲ヲ示シ讀譜歌唱

セシム、器樂||オルガン、ピアノ

ノ一ノ中其一ヲ選ヒ各自既習ノ曲

ニツキ演奏セシム

(2) 試驗日時

國語。三月二十六日(午前十時ヨリ十一時三十分マデ)  
圖畫。同日(午後一時ヨリ二時マデ)

音樂、唱歌)同日(午後二時十分ヨリ)

數學。同 二十七日(午前八時ヨリ十時マデ)

音樂(器樂)同日(午前十時十分ヨリ)

(二) 身體檢査及口頭試問(三月二十七日午前十時十分ヨリ)

- 一、入學者選抜。入學者選抜ノ決定ハ三月下旬、選抜者ハ之ヲ官報ニ揭示シ且ツ本人ニ通知ス

一、出願期限 本年二月二十日

一、募集人員 (通學生約十名 寄宿生約二十名)

- 一、入學願書、履歷書、學業成績并人物考定書、身體檢査書ノ書式ハ保姆養成科入學志願者心得 參照ノコト

○保育實習科の新卒業生

今春同科では二十四名が卒業するが、採用希望は同校附屬幼稚園に申込まれないと。

定 規 文 注 告 票

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。
  - 一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。
  - 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新聞書、交換雜誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。
- 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内**
- 日本幼稚園協會**
- 一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割増）
  - 一、御送金の場合なるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
  - 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
  - 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
  - 一、會費切又は前金切の際にはその最終送金の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
  - 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

告 廣

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓  
 一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷  
 神田區南甲賀町八品田與松に御申下ささい。

發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内  
**日本幼稚園協會**  
 振替口座東京一七二六六番

不 許 復 製 禁 轉 載

編輯兼 倉 橋 惣 三  
 發行者 倉 橋 惣 三  
 印刷者 須 藤 紋 一  
 印刷所 京華社印刷所  
 東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

昭和六年二月十二日印刷納本  
 昭和六年二月十五日發行  
 幼兒の教育 第三十一卷第二號

價 定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

成城小學校訓導 奧野庄太郎先生著

# 兒童圖書館用書

# 東西童話新選

# 東西幼年童話新選

折角子供の爲にかゝれたグリムやアンデルセンの童話等も其翻譯や翻案が難詰な爲結局大人の讀物となる事は誠に遺憾です童話は飽まで子供の知能、子供の情緒、子供の徳性を培ふ源泉たる筈です。本童話新選は徹頭徹尾、子供の爲に用意された讀物で、極く平易な文章と用字で、特に子供の讀物として適切な活字と組方を研究し、たとひ其一字一句にも子供を對象としての親切さが滿ち溢れてゐます。小館は藝に世界著名の童話を紹介すべく學習室文庫を發刊し、國學校から多大の賞讃を得ましたが、本童話新選は右文庫中最も兒童に親炙せるもの數十篇宛を撰び、優雅な裝幀堅牢な美本として新たに提供します。何卒各小學校、兒童圖書館並に一般家庭の御必備を希ひます。

各壹冊の定價と體裁  
 各卷 菊判 全一冊宛  
 各卷 總クロス洋綴  
 各卷 紙數 五百頁宛  
 各卷 插畫 四十張宛  
 各卷 彩色 畫四葉  
 定價 二圓宛  
 各卷 送料 廿七錢宛

店書館文中 區込牛市京東 四七一町天辦 番七二四八三京東替振

八地人又

のののの

券券券券

尋四

年程五

度六常

梅櫻菊楓

のののの

券券券券

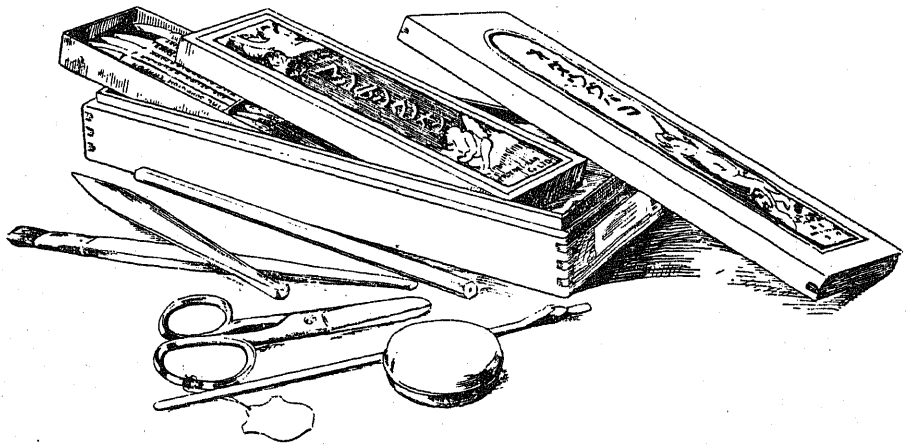
尋一

年程二

度三常

東京女子高等師範學校附屬幼稚園御撰定

お 道 具 箱



昭和四年五月十五日第一種郵便物認可  
(毎月一回十五日發行)

昭和六年二月十二日印刷納本  
昭和六年二月十五日發行

お道具箱とぬりゑの由來

倉橋惣三先生の談

「お道具箱」や「ぬりゑ」を、東京女高師附屬幼稚園で、使はせ初めたのは私であります(是等は入園の際に保護者に話して各自に買はせるのであります)これについては凡そ左の三つの理由を擧げることが出来ます。

一、從來、普通これ等を幼稚園で、貸したり、與へたりしてゐたのでありますから、是等に要した費用を他の材料費に振り向けて、豊富に材料を提供する爲め。

二、幼稚園で日用ふるもの、自分のものと極つたものは殆どない。故に此等を唯一の自己所有物として、常に整理整頓せしむることは須要なる訓練の一つであります。

三、幼稚園終了の際にはこれを家庭に持ち歸らしめ保育時代の記念品として保存することは、最も有意義なことでありませう。

右等の意味に於て私は常に、お道具箱や、ぬりゑ、並に自由畫帖を、各自に買はせる様常に奨勵してゐるのであります。(文責在筆者)

お道具箱一揃 定價 金一圓

洋刷機	金三十錢	糊(容器付)	金五錢
クレオン	金二十五錢	鉛筆	金五錢
針	金十五錢	規	金五錢
毛筆	金十錢	定規	金五錢
針	金十錢	定規	金五錢
針	金十錢	定規	金五錢

東京・神田・二橋通(教育會館内)

株式會社 フレール 館

電話九段(御注文用)三八二七  
三四八・三六三・三七三・三七八  
振替 東京 一九六四〇

定價三十五錢